

3月28日(土) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
13:30	A101 ○三代浩二1・外山晶敏1・檀垣守男1・井原史雄1 (果樹研つくば1) チャバネオオカメムシおよびクサギカメムシ成虫における体内諸器官発達度の変化と共生細菌密度の推移	B101 ○遠坂康彦1・西田隆義1 (京大院農・昆虫生態1) 内交配から任意交配に至る過程でオスはなぜ大型化したか？	C101 ○西郷隆治1・土田浩治1 (岐阜大・応生・昆虫1) フタモンアシナガバチのワーカー産卵における卵の識別	D101 ○中野昭雄1 (徳島農研1) ヒメハナカメムシ類のオクラ蕾における発生とその特徴の利用	E101 ○菖蒲信一郎1・緒方裕和1・山口純一郎2・口本文孝3 (佐賀農技防1・佐賀農試セ2・佐賀果樹試3) トビイロウンカ飛来時に出現する強風域の特徴について	F101 ○目黒紘子1・安倍弘1・五箇公一2 (日大院生物資源・生物1・国立環境研2) ウシオダニ類における分子情報に基づいた系統関係の推定
13:45	A102 ○松倉啓一郎1・松村正哉1・徳田誠2 (九州沖縄農研1・理研PSC2) ワラビー萎縮症はフタテンチビヨコバイ幼虫の発育を促進する	B102 ○福井昌夫1 (京大院農・昆虫生理1) エゾエンマコオロギとタイワンエンマコオロギの遠くで近い関係	C102 ○佐々木謙1・山崎和久2・土田浩治2・長尾隆司1 (金沢工大・生命情報1・岐阜大・昆虫生態2) フタモンアシナガバチの卵巣発達におけるドーパミンの役割	D102 ○可児達也1・吉安裕1 (京府大・院・農1) タイリクヒメハナカメムシに対して3種殺虫剤が与える亜致死の影響	E102 ○大塚彰1・植野節子2・松村正哉3・渡邊朋也1 (中央農研1・日植防2・九州沖縄農研3) イネウンカ類の飛来予測・解析情報の新しい利用方法	F102 ○赤嶺真由美1・前川清人2・近雅博3 (滋賀県立大・院1・富山大・理工2・滋賀県立大・環境3) アジア産ヒラタクワガタ種群における大アゴ形状の特徴
14:00	A103 ○池本孝哉1 (帝京大・医・微生物1) 「内的な発育最適温度」は何を語るか	B103 ○西尾良平1・竹田真木生1 (神戸大院農・昆虫機能1) コオロギ <i>Gryllus</i> #50 WEISSMAN 幼虫にみられる2種類の眠りと発育上の機能	C103 ○山崎和久1・土田浩治1 (岐阜大院・昆虫生態1) コアシナガバチのワーカー繁殖と体表化学成分に関する研究	D103 ○櫻井玄1・高木正見1・上野高敏1・嶽崎研2・林川修二2 (九大生防研1・鹿児島農総セ2) アルファルファタコゾウムシとその寄生蜂ヨーロッパトビチビアメバチの密度に及ぼす農地周辺環境の影響	E103 ○平江雅宏1・関和孝博2 (中央農研・北陸研究セ1・栃木農業環境指導セ2) 水稻におけるイナズマヨコバイの被害解析	F103 ○立田晴記1・五箇公一2 (琉球大農・亜熱帯動物学1・国立環境研究所2) アジア産ヒラタクワガタ種群における大アゴ形状の特徴
14:15	A104 ○徳丸晋1・上山博2 (京都農総研1・京都防除所2) プラタナスグンバイの発育に及ぼす温度の影響ならびに総産卵数・寿命	B104 ○中野亮1・石川幸男1・田付貞洋1・Surlykke Annemarie2・Skals Niels2・高梨琢磨3 (東大・農学生命1・南デนมーク大2・森林総研3) キマエホソバは配偶者と捕食者の発する超音波を識別しているか？	C104 ○奥野正樹1・辻和希2・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1・琉大・農2) グルーミング行動がアリの集合や生存に及ぼす影響	D104 ○守屋成一1・Ambra Quacchia2・Giovanni Bosio3・Chiara Gerbaudo2・Alberto Alma2 (中央農研1・トリノ大学2・ピエモンテ州植物衛生局3) イタリアにおける導入天敵チュウゴクオナガコバチの多地点同時放飼	E104 山岸正明1・原口大1・谷口昌弘1・児玉博聖1 (沖縄防技セ1) 沖縄本島におけるミスジミバエによるウリ科作物の被害	F104 魚住太郎1・石渡啓介1・佐々木剛2・宮田隆12・蘇智慧12 (阪大院理1・JT生命誌研究館2) 複数の核遺伝子による鰓脚類の系統解析
14:30	A105 ○上山博1・徳丸晋2 (京都防除所1・京都農総研2) 京都府におけるプラタナスグンバイの発生消長	B105 ○山本有里1・北條賢1・秋野順治1・山岡亮平1 (京工繊大・応用生物1) アリの吸蜜経験がムラサキシジミとの相利共生に及ぼす影響	C105 ○諏訪部真友子1・東正剛2・辻和希1 (琉大院・農1・北大院・地球環境2) 侵略的外来種アシナガキアリの侵入に林道が与える影響	D105 ○阿部芳久1 (九大院比文・生物多様性1) 卵・蛹寄生と幼虫・蛹寄生をおこなうコガタハモグリヤドリタマバチ(膜翅目:ヤドリタマバチ科)の寄主年齢選好性	E105 田野飛1・坂巻祥孝1・柳下町鉦敏1 (鹿児島大農・害虫1) 高温条件下におけるマメハモグリバエとトマトハモグリバエの産卵と発育	F105 ○石渡啓介1・佐々木剛2・宮田隆12・蘇智慧12 (阪大院理1・JT生命誌研究館2) タンパク質をコードする3つの核遺伝子による昆虫類の系統解析
14:45	A106 ○川島俊次1・上室剛2・下津文宏1・里島伸司1・上福元彰1 (鹿児島県大島支庁1・鹿児島防除所大島駐在2) アリモドキゾウムシの低温保管技術 1) 成虫の低温保管技術	B106 ○等々力成史1・福井昌夫2・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1・京大院・農・昆虫生理2) ツマグロバタにおける発音のタイミングをめぐるオス間の競争	C106 ○矢代敏久1・松浦健二1・巽真悟1・小林仁2 (岡大院環境・昆虫生態1・岡山大・農2) シロアリ卵擬態菌核菌の平行進化と物理的擬態の進化メカニズム	D106 ○河津圭1・下田武志1・鈴木芳人1 (中央農研1) コナガサムライコマユバチの寄生探索行動に対する薬剤の阻害効果(2)	E106 ○岩崎暁生1・大塚彰2・三田村敏正3・新藤潤一4・榊原充隆5 (北海道中央農試1・中央農研2・福島農総セ3・青森農林総研畑園試4・東北農研5) ナモグリバエの北日本への飛来源の推定	F106 ○徳田誠1・田中誠二2・朱道弘3 (理研・農生研1・農生研2・中林科技大・中国3) 日本のトノサマバタはどこから来たのか？ —分子系統と生物地理—

3月28日(土) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G101○丹羽隆介1・並木俊樹2・伊藤克彦3・河岡慎平3・粥川琢己2・伴野豊4・藤本善徳5・重信秀治6・小林悟6・嶋田透3・勝間進3・篠田徹郎2(筑波大院・生命環境1・農生研2・東大・農3・九大・農4・東工大・理工5・基生研・岡崎統合バイオ6)前胸腺でのエクジソン合成に必須の役割を担う新規酵素の同定	H101○舟山健1(秋田農技セ果樹試1)リンゴ園におけるケナガカブリダニの越冬場所	I101○吉安裕1・人見奈緒子2・山下幸司3(京都府大・生命環境1・京都府大・生命環境2・京都茶研3)チャ寄生性ミカントゲコナジラムの天敵シルベストリコバチの飼育法と発育	J101○大坂龍1・野村昌史1・和多田正義2・陰山大輔3(千葉大院・応動昆1・愛媛大・動物遺伝2・生物研・昆虫微生物3)カスリショウジョウバエのハプロタイプとスピロプラズマ共生の関係	K101○土門宏史1・村井保1・香川清彦1(宇都宮大農・応用昆虫1)コマツナギアブラムシの両性型出現と日長条件	13:30
G102○比留間潔1・Riddiford Lynn2・Reynolds Stuart3(弘前大・農生1・HHMI2・Univ. Bath3)Bisacylhydrazine ecdysone agonistと内在幼若ホルモンの相互作用による過剰脱皮誘導	H102○高梨祐明1・土師岳1・足立嘉彦1・豊島真吾2・新井朋徳2・柳沼勝彦2(東北農研省農薬リンゴ1・果樹研省農薬リンゴ2)リンゴの主幹粘着トラップを利用したナミハダニの移動実態の把握	I102○佐藤安志1・山下幸司2・竹若与志一3・宮本大輔4・富所康広5・吉安裕6(野茶研・金谷1・京都茶研2・滋賀農技セ・茶業指導所3・奈良農総セ・茶振セ4・三重農薬研・茶業研究室5・京都府大生命環境・応用昆虫6)我が国の茶園におけるミカントゲコナジラムの発生状況	J102○深津武馬1・細川貴弘1・二河成男2・佐藤雅彦3・孟憲英1・花田智1・古賀隆一1(産総研・生物機能工学1・放送大・自然の理解2・利尻町立博物館3)コウモリ絶対寄生性クモバエ類の内部共生細菌について	K102○鏡味知里1・村井保1・高橋滋1・香川清彦1(宇都宮大農・応用昆虫1)不完全生活環型ダイズアブラムシの発見	13:45
G103○前野浩太郎12・田中誠二1(農生研大わし・バッタ研究室1・学振2)サイバクトビバッタの相変異・子の形質決定における幼若ホルモンの役割	H103○杉浦直幸1・榊英雄1(熊本農研セ果樹研1)無加温施設栽培「不知火」園内に自生するムラサキカタバミにおけるカタバミハダニとカブリダニ類の発消長・樹上のミカンハダニの密度に及ぼす影響	I103○上宮健吉1・吉安裕2・佐藤安志3(久留米大・比較文化研1・京都府立大農・応用昆虫2・野菜茶業研究所・金谷3)ミカントゲコナジラム、茶の新害虫と柑橘類の害虫との交尾信号の差異	J103○棚橋薫彦1・松下範久2・久保田耕平1・富樫一巳1(東大院農・森林動物1・東大院農・森林植物2)クワガタムシ科の雌成虫における菌嚢状器官とそれから分離された酵母	K103○香川清彦1・高橋滋1・村井保1(宇都宮大・農1)ツメクサアブラムシ <i>Aphis coronillae</i> Ferrariの日本における新たな分布地	14:00
G104○村松大輔1・比留間潔1(弘前大・農学生命1)コミットメントはall-or-noneで起こるか—Verson's glandを用いた単一細胞のコミットメント機構の解析	H104○内山徹1・芳賀一1・増井伸一1(静岡農林研1)静岡県の減化学農薬シロネギほ場に発生した土着天敵	I104○萬屋宏1・谷口郁也1・吉田克志1・田中淳一1・荻野暁子1・根角厚司1(野茶研・枕崎1)チャにおける虫害程度の品種間差異の評価	J104○坂本洋典1・北本宏子1・小坂橋基夫1・鈴木健1・田端純1・望月淳1・中島敏明2・對馬誠也1・藤井毅1(農環研1・筑波大学2)ネプトクワガタ中腸からの生分解性プラスチック分解酵母の分離	K104○粕川祥子1・村井保1(宇都宮大農・応用昆虫1)ネギアザミウマの単為生殖型の変異に関する研究	14:15
G105○秋元真理1・金児雄1・比留間潔1(弘前大・農生1)カイコcroschet細胞における形成能力のホルモン制御および細胞死のメカニズム	H105○大井田寛12・天野洋2・内野憲1(千葉農林総研1・千葉大院2)千葉県の露地栽培ネギ圃場におけるカブリダニ類の発生状況	I105○広瀬拓也1・中石一英1・下八川裕司1・坂田美佳2・野中美恵2・野村守由2・山崎浩実2(高知農技セ1・高知中央東農振セ2)施設栽培ナス科果菜類におけるタバココナジラムの防除(1)微生物農薬を用いた施設栽培シシトウでの防除	J105○道幸太輝1・野村昌史1・成田聡子2(千葉大・院・園芸1・生物研・昆虫微生物2)モンシロチョウにおける <i>Wolbachia</i> の感染頻度とその系統について	K105○武田光能1・河野勝行1(野菜茶研1)コマツナ葉を与えた場合のナモグリバエの産卵に及ぼす温度の影響	14:30
G106○金城輝則1・金児雄2・木内信3・比留間潔12(岩手大・連合農学1・弘前大・農生2・農生研3)JH合成酵素遺伝子を介したエクジソンによるJH合成調節	H106○古味一洋1(高知農技セ1)施設栽培キュウリ圃場におけるヘヤカブリダニの大量増殖法およびミナキイロアザミウマに対する防除効果	I106○広瀬拓也1・伊藤政雄1・中石一英1・下八川裕司1・久永廣和2(高知農技セ1・高知中央東農振セ2)施設栽培ナス科果菜類におけるタバココナジラムの防除(2)微生物農薬を用いた施設栽培ナスでの防除	J106○秋月直也1・仲井まどか2・国見裕久2(農工大・農1・農工大・農2) <i>Wolbachia</i> の寄生がチャハマキの発育と生存に及ぼす影響	K106○谷口昌弘1・上地奈美2・安藤緑樹1・上里卓己1・兒玉博聖1・島谷真幸1・金城衣恵1・貴島圭介3(沖縄病防センター1・果樹研究所2・沖縄農研センター3)ゴーヤー花蕾を加害するラッポミタマバエの沖縄県における分布と被害程度	14:45

3月28日(土) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:00	A107○上室剛1・下津文宏2・川島俊次2・里島伸司2・上福元彰2 (鹿児島防除所大島駐在1・鹿児島県大島支庁2) アリモドキゾウムシの低温保管技術 2) 幼虫期の低温保管技術	B107○横井智之1・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1) 花上の他個体を認識するハナバチの訪花行動	C107○松浦健二1 (岡大院環境・昆虫生態1) 卵擬態菌核菌が卵認識フェロモンでシロアリを操るメカニズムとその進化	D107○屋良佳緒利1・笹脇彰徳2・国見裕久3 (農環研1・長野農総試2・農工大院・農3) クリマモリオナガコバチ晩期羽化型とチュウゴクオナガコバチの交雑	E107○高馬浩寿1・佐野敏広1 (岡山農総セ1) ブドウを害するクビアカスカシバの発生生態の解明と防除対策の確立	F107○松本由記子1・松村正哉2・佐藤友紀1・野田博明1 (生物研1・九州沖縄農研2) ミトコンドリア遺伝子の多型に基づくウнкаの飛来源推定の試み
15:15	A108○澤村信生1・奈良井祐隆1 (島根農技セ1) フジコナカイガラムシの越冬について	B108○奥圭子1・奥谷恭代2・渡邊朋也1 (中央農研1・鳥取農林総研・農試2) アカスジカスミカメの交尾行動に影響する要因	C108○宮国泰史1・杉尾幸司2 (琉球大院・教・理科1・琉球大・教・理科2) コウシュンシロアリにおける二次生殖虫の出現条件	D108○邊英雄1・津田みどり1・高木正見1・KimJeong Hwan2・KimYong Heon2 (Kyushu Univ.1・NIAST2) 実験室内におけるモモアカアブラムシの寄生蜂チャバラコバチの空間分布と機能の反応	E108○新井朋徳1・高梨祐明2・井原史雄3 (果樹研・リンゴ1・東北農研2・果樹研究所3) スモモヒメシロアリの岩手県北部における産卵時期の推定	F108 長谷川悟史1・小林淳1・中川浩二2・松本由記子3・野田博明3 (山口大・農1・山口農技セ2・生物研3) 山口県で採集されたウнка3種のミトコンドリアDNA部分配列の比較解析
15:30	A109○渡辺衛介1・安達・秋森鉄矢1・三浦一芸2 (広島大院・生物圏1・広島大院・生物圏、近中四農研2) 多数回交尾した雌カマキリが残す次世代は複数の雄由来か	B109○浦川慶子1・奥圭子2・菅野亘2・渡邊朋也2 (宮城防除所1・中央農研2) アカスジカスミカメ雌成虫の交尾行動と精包の役割	C109○板倉修司1・寒川敏行1・西口裕文1・田中裕美1・榎章郎1 (近大農・応用生命化学1) 食用きのこ廃菌床および廃菌床抽出物によるヤマトシロアリの飼育	D109○青木隆慈1・村井保1 (宇都宮大農・応用昆虫1) 天敵資材として有望なアブラバチ <i>Ephedrus nacheri</i>	E109○河野勝行1・武田光能1 (野菜茶業研究所1) コナガ発生予防用性フェロモン誘引剤に多数誘引されたコナガ以外の鱗翅目昆虫	F109○和智仲是1・阿部芳久2 (九大院・理・生物1・九大院・比文・生物多様性2) mtDNA部分配列に基づくナライガタマバチ種群(膜翅目:タマバチ科)の集団構造の推定
15:45	A110○松枝敦夫1・藤崎憲治1 (京大院農・昆虫生態1) アメンボのオスはなぜ交尾後に自発的にメスから降りようとししないのか?	B110○八尾泉1 (北大・低温・生物多様1) アリ共生型アブラムシは翅があっても飛んでない	C110○芳山三喜雄1・木村澄1 (畜草研1) ニホンミツバチにおける腸内細菌の分類	D110○村井保1・湯川淳一2 (宇都宮大農・応用昆虫1・九大2) アブラムシ寄生性タマバエ <i>Endaphis</i> sp. 発見と生物防除資材としての可能性	E110○吉村具子1・森本信生2・鈴木芳人2 (山形農研セ1・中央農研セ2) 山形県におけるフタオビコヤガ発生量に影響を及ぼす要因	F110○湯川淳一1・佐藤信輔1・徳田誠2・中田健3・澤村信生4・佐々木正剛5・荒川昭弘5 (九大農1・理研2・鳥取農総研園試3・島根農技セ4・福島農総セ5) ナシシンクイタマバエ <i>Resseliella</i> sp. (双翅目:タマバチ科)のその後の発見と種の同定
16:00	A111○永山敦士1 (沖縄農研セ1) イネヨトウ雌成虫の繁殖特性に及ぼす交尾遅延の影響	B111○岡田賢祐12・山根隆史2・宮竹貴久2 (University of Exeter1・岡大院・環境・進化生態2) 甲虫におけるオスの大顎と分散、精子競争能力のトレードオフ	C111○久保良平1・小野正人1 (玉川大・院・昆虫機能1) マルハナバチ女王によるクマガイソウの授粉様式に関する研究	D111○仲島義貴1・安田哲也2・松原一世1・入交利都1・Birkett Mickel3・Powell Wilf3 (帯広畜産大・昆虫1・中央農研2・Rothamsted Research3) アブラムシの一次寄生蜂と高次寄生蜂の行動操作による生物防除の効果増強の試み	E111○衛藤友紀1・山口純一郎2・松永禎史3・緒方和裕1 (佐賀農技防セ1・佐賀農試セ2・サンケイ化学3) 西南暖地におけるフタオビコヤガのフェロモントラップによる誘殺消長	F111○奈良井祐隆1・土田聡2・澤村信生1 (島根農技セ1・果樹研・ブドウ・カキ2) 農作物を害するコナカイガラムシ類6種のPCR-RFLPによる識別
16:15	A112○Perez Goodwyn Pablo1・前園泰徳1・細田奈麻絵1・藤崎憲治1 (京大農昆虫生態1) 半透明性と超撥水性の両方を獲得した翅:アサギマダラ <i>Parantica sita</i> における適応	B112○熊野了州12・栗和田隆12・城本啓子12・原口大1・小濱継雄3 (沖縄病害虫防技セ1・(株)琉球産経2・沖縄農研セ3) イモゾウムシの精子競争の集団間比較	C112○吉田忠晴1 (玉川大ミツバチ科学1) ミツバチ蜂群に飛来するクロメンガタスズメ	D112○藤沼正博1・戒能洋一1・本田洋1・根本久2 (筑波大・生命環境1・埼玉農総研2) ポリジに対するコレマンアブラバチの反応の検定法による差異	E112○南島誠1・杉江元2・田端純2・福本毅彦3・望月文昭3・吉安裕4 (長野南信農試・病害虫土壌肥料部1・農環研2・信越化学3・京都府大4) 日本産ナシマダラメイガの発生予測用誘引剤	F112○松尾和典1・湯川淳一2 (九大院・生資環・昆虫1・九大2) ツワブキケブカミバエ(双翅目:ミバエ科)に寄生する <i>Torymus</i> 属(膜翅目:オナガコバチ科)の分類学的研究

3月28日(土) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G107○松井洋人1・掛井基徳2・永田晋治3・桜井勝12・岩見雅史12 (金沢大・理・生物1・金沢大・院自然・生命2・東大・院農生3) カイコ前部絹糸腺に存在する20E誘導性予定細胞死抑制因子の特性	H107○森田茂樹1・柳田裕紹1・浦広幸1・嶽本弘之1 (福岡農総試1) 促成栽培ナスにおけるスワルスキーカブリダニの防除効果	I107○中石一英1・広瀬拓也1・古味一洋1・伊藤政雄1・下八川裕司1・坂田美佳2・野中美恵2・野村守由2 (高知農技セ1・高知中央東農振セ2) 施設栽培ナス科果菜類におけるタバココナジラミの防除(3)在来天敵を用いた防除	J107○小山裕徳1・中西和子1・仲井まどか1・国見裕久1 (農工大院農・応用遺伝1) 埼玉県および茨城県のチャハマキ個体群における雄殺しウイルスの有病率の変動	K107○丹羽信暁1・土田浩治2 (岐阜大院応生・昆虫生態1・岐阜大応生・昆虫生態2) ニュージーランドに侵入したフタモンアシナガバチ個体群の遺伝的構造	15:00
G108○金児雄1・山中直岐2・片岡宏誌3・比留間潔1 (弘前大・農学生命1・ミネソタ大2・東大・新領域3) カイコにおけるペプチドホルモンによる時期特異的なJH合成制御	H108○大野豪1・宮城聡子1・喜久村智子1・後藤哲雄2・北嶋康樹2・大石毅1・安藤緑樹3・貴島圭介1・二神和靖3・上里卓己3・安田慶次1 (沖縄農研セ1・茨城大・農・応動昆2・沖縄防技セ3) 沖縄の特異な野菜害虫ハダニ相	I108○下八川裕司1 (高知農技セ1) タバココナジラミに対する気門封鎖剤と微生物農薬の防除効果	J108○杉本貴史1・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1) Male-killingを引き起こすWolbachiaは宿主のオスをメス化している	K108○志賀正和1・外山昌敏1・井原史雄1 (果樹研究所・果樹害虫1) ニュージーランドに侵入したフタモンアシナガバチ個体群の遺伝的構造	15:15
G109○横山拓彦1・比留間潔1・富田秀一郎2 (岩手連合農学1・生物研2) カイコの転写因子BHR4発現と血中エクダイソン濃度との関連	H109○安藤公則1・中平国光1・木村澄2・芳山三喜雄2 (日産化学工業株式会社1・畜草研・みつばち2) 新規殺ダニ剤シエノピラフェンの有用生物および天敵への影響評価～ミツバチを中心に <i>in vivo</i> 、 <i>in vitro</i> 系を用いた評価フローの構築～	I109○貴島圭介1・喜久村智子1・大野豪1・上田重文2・大石毅1・太郎良和彦1・谷口昌弘3・二神和靖3・上里卓己3・安藤緑樹3・兒玉博聖3・安田慶次1 (沖縄農研セ1・九州沖縄農研セ2・沖縄防技セ3) 沖縄県におけるタバココナジラミバイオタイプの分布と寄主植物(作物編)	J109 Davies Andrew1・三浦一芸23・安達・秋森鉄也3・渡部真也3・渡辺衛介3 (JSPS1・近中四農研2・広島大院・生物園3) 産雌性単為生殖における進化の袋小路からの共生微生物の脱出方法	K109○檜垣守男1・井原史雄1・外山昌敏1・三代浩二1 (果樹研つくば1) クリシグゾウムシの長期休眠・休眠深度の可逆的变化	15:30
G110○外川徹1・粥川琢巳1・中村有希1・今西重雄1・野田博明1・三田和英1・篠田徹郎1 (農生研1) カイコ培養細胞において幼若ホルモン(JH)により誘導されるbHLH転写因子群	H110○瀧井新自1・安藤公則1・中平国光1 (日産化学工業株式会社1) 新規殺ダニ剤シエノピラフェンの作用特性	I110○西野実1・北上達1・本多健一郎2 (三重農研1・野菜茶研2) タバココナジラミバイオタイプQの加害によるトマト着色異常果の発生	J110○中野亮平1・渡部真也2・西東力1・三浦一芸23・田上陽介1 (静岡大院・農1・広島大院・生物園2・近中四農研3) コヒメハナカメムシに感染する3系統のWolbachiaの地理的変異と宿主への影響	K110○江崎功二郎1・鎌田直人2 (石川県林試1・東大2) 冷温帯におけるカシノナガキクイムシの越冬と低温耐性	15:45
G111○清水泰博1・外川徹1・三田和英1・中村有希1・並木俊樹1・野田博明1・篠田徹郎1 (農生研1) 新規カイコ44kマイクロアレイを用いたJH合成酵素遺伝子の探索	H111○藤井聡子1・一幅由香利1・村井保2・和田佳祐2・岩井仁美2・秋吉信行3・平野耕治3 (石原バイオサイエンス(株)1・宇都宮大2・石原産業(株)3) 施設イチゴにおけるIPM実証試験(3)：育苗期における天敵チリカブリダニと化学農薬併用によるハダニ防除効果	I111○杉山恵太郎1・大石直記2・石垣洋二3・芳賀一2・多々良明夫4 (静岡防除所1・静岡農林技研2・フルタ電機株式会社3・静岡県産業部4) 陽圧式強制換気温室の防除効果	J111○渡部真也1・中野亮平2・田上陽介2・三浦一芸13 (広島大院・生物園1・静岡大院・農2・近中四農研3) タイリクヒメハナカメムシ野外個体群内におけるWolbachia感染拡大の可能性	K111○安藤喜一1 (弘前市1) カマキリタマゴカツオブシムシの生活史	16:00
G112○上田浩人1・村松大輔1・外川徹2・中村有希2・野田博明2・三田和英2・篠田徹郎2・比留間潔1 (弘前大・農生1・農生研2) マイクロアレイを用いたカイコ皮膚におけるJH応答性遺伝子の解析	H112○羽田厚1・鈴木敏男1 (岩手農研1) 寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜	I112○喜久村(我那覇)智子1・貴島圭介1・大野豪1・安田慶次1 (沖縄農研セ1) 沖縄産チチュウカイツヤコバチ <i>Eretmocerus mundus</i> の薬剤感受性	J112○菊池義智1・細川貴弘1・深津武馬1 (産総研・生物機能工学1) ホソヘリカメムシにおけるGFP組換え体を用いた共生細菌感染過程の解明	K112○寺尾美里1・廣瀬譲1・新谷喜紀1 (南九州大院・園芸昆虫1) マメハシヨウ幼虫の飢餓耐性	16:15

3月28日(土) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:30	A113○井出純哉1 (京大院農・昆虫生態1) ヒカゲチョウとクロヒカゲ の種間相互作用に対する 笹の一斉枯死の影響	B113○松村洋子1 (北大農院昆虫体系1) 極端に伸長した交尾器 の選択とコストの検証 - トゲアシクビボソハムシ (鞘翅目、ハムシ科)の 例 -	C113○岡本美里1・大 河原恭祐1 (金沢大院・自然科学1) 単為生殖下におけるウ メマツアリ女王の産卵行 動について	D113○羽生和史1・戒 能洋一1・本田洋1・一木 良子2・中村達2 (筑波大・生命環境1・国 際農研2) 寄主加害トモロコシか ら放出される揮発性物 質の経時的変化	E113○田端純1・南島 誠2・杉江元1・福本毅 彦3・望月文昭3・吉安 裕4 (農環研1・長野県・南信 農試2・信越化学3・京 都府大4) ナシマダラメイガの性 フェロモン成分	F113○小山昌志1 (和歌山農試1) ショウガクロバネキノコバエに 対する二酸化炭素の殺虫効 果
16:45	A114○鈴木紀之1・西 田隆義1 (京大院・農・昆虫生態 1) 卵サイズにかかる形態 的制約を打破するウラ ナミジャノメ:成虫と卵の 形態の可塑的な変化	B114○洲崎雄1・宮竹 貴久2 (岡山大農・動物集団生 態1・岡山大院・進化生 態2) メダカナガカメムシにお ける同ペアによる交尾 器挿入時間と精子移送 量の関係	C114○大河原恭祐1・ 岡本美里1 (金沢大・自然科学・生 物1) ウメマツアリ繁殖虫の単 為生殖と有性生殖の混 合生産について	D114○安部順一郎1・ 熊倉裕史1 (農研機構・近農研1) 生活史特性を利用した 日本産ショクガタマバエ の簡易増殖技術	E114○松田正利1 (青森農林総研畑園試 1) 青森県南部地域におけ るネギアザミウマの多発 生と薬剤感受性	F114○森本輝一1・杉井信次 1・小梨伸隆1 (シンジェンタジャパン1) デジタルメガフレア箱粒剤に よる斑点米カメムシ類の防除

3月28日(土) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G113○粥川琢巳1・水口智江可12・神村学1・今西重雄1・篠田徹郎1 (農生研1・名大院・生命農2) カイコ培養細胞におけるKr-h1遺伝子の幼若ホルモンに対する応答性	H113○柳田裕紹1・森田茂樹1・浦広幸1・石井貴明1・嶽本弘之2・國武孝浩3・柏尾具俊4 (福岡農総試1・福岡県農林水産部2・八女農改普セ3・九州沖縄農研4) 促成イチゴにおけるハダニ類とアブラムシ類を対象としたIPM体系の評価	I113○勝山祐子1・杉山恵太郎2・西東力1・田上陽介1 (静岡大農1・静岡農林研2) なぜハモグリバエ類はインゲン葉の裏面に付着し、寄生蜂は付着しないのか？	J113○上遠岳彦1・小笠原純子1・西村優基1 (国際基督教大・生命科学1) 日本におけるオカダンゴムシへの <i>Wolbachia</i> 感染	K113○山岸勝哉1・野村昌史1・望月淳2 (千葉大・院・園芸1・農環研2) ヤマトクサカゲロウ2タイプ間の生態学的性質の比較	16:30
G114○村田未果1・小林功1・田村俊樹1・篠田徹郎1 (農生研1) トランスジェニックカイコを用いたJHAMT遺伝子の <i>in vivo</i> 機能解析	H114○小澤朗人1 (静岡農技研・茶研センター1) 減農薬茶園におけるクワシロカイガラムシと寄生蜂群集との相互関係	I114 坂崎春菜1・田上陽介1・西東力1 (静岡大農・応用昆虫1) マメハモグリバエの卵を植物葉に埋め込んだ場合の寄生性と採卵法の検討	J114○中村有希12・行弘文子2・野田博明12 (東大院・新領域1・生物研2) <i>Wolbachia</i> と <i>Cardinium</i> が誘導するセジロウンカの細胞質不和合性	K114○五味正志1・向井健浩1・中山正基1・横山昂佑1・足立久美子1・清水愛1・川端えり子2・竹田真木生2 (県立広島大・生命環境1・神戸大院農2) 北陸地方におけるアメリカシロヒトリ個体群の生活史と気候変化	16:45

3月29日(日) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A201○田中晋吾1 (北大SGP1) 行動操作か副作用か - 寄生蜂アオムシコマユ バチに寄生されたオオ モンシロチョウの行動変 化について	B201○本間淳1・鶴井 香織2・西田隆義2 (京大院理・動物行動1・ 京大院農・昆虫生態2) 自切しつながらいないオス コバネイナゴにおける自 切の配偶コスト	C201○上野貴之1・中 岡貴義1・竹内秀明1・久 保健雄1 (東大・院理・生物科学 1) セイヨウミツバチ <i>Apis mellifera</i> L.働き蜂の分 業に伴う下咽頭腺の構 造・機能変化に関わる 遺伝子候補の同定	D201西川翔子1・○矢 野栄二1・西田剛章1・森 下彌雲1・柴田真志1・杉 本和成1・平尾沙緒理1・ 藤永理恵1 (近畿大・農1) 在来系統シヨクガタマバ エの増殖、産卵選択に 対する餌種の影響	E201○古木孝典1・西 島卓也1・金子修治2・ 小澤朗人3 (静岡防除所1・静岡農 林研果研センター2・静 岡農林研茶研センター 3) 静岡県の茶園における 有効積算温度によるク ワシロカイガラムシの防 除適期予測とJPP-NET を用いた検証(II:山間 地域)	F201○諏訪明之1・坂田和之 1・西松哲義1・上原正浩1・山 口力雄1 (日本農薬(株)1) 新規昆虫行動制御剤ピリフル キナゾン(コルト)に関する研 究(第2報)
9:15	A202○山田芳樹1・ 佐々木均1 (酪農学園大学・環境昆 虫学1) 林縁に位置する道路が 森林性オサムシ類の分 散行動に与える影響	B202○日室千尋1・藤 崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態 1) 交尾した雌雄における 飢餓耐性の弱体化とそ の要因	C202○赤坂真也1・ 佐々木謙1・長尾隆司1・ 原野健一2 (金沢工大・生命情報1・ 農生研・バッタ研究室2) ミツバチ雄の繁殖行動 におけるドーバミンの役 割	D202○桂明宏1・杉山 良平1・矢野栄二1 (近畿大・農1) 在来系統シヨクガタマバ エの捕食量	E202○横田啓1・阿部 信治2・望月文昭3 (岩手農研1・岩手防除 所2・信越化学3) 岩手県におけるウコンノ メイガの発生消長	F202○大谷徹1・三平東作1・ 佐藤三郎1・古川誠司2 (千葉農林総研1・小林製袋産 業(株)2) 新しく開発したピワの二重果 実袋「SS-2」による果樹カメム シ類の被害防止効果
9:30	A203○笹川幸治1・池 田紘士2・久保田多余子 3 (東大院・広域1・京大 院・理・動物生態2・森林 総研3) 種子食性オサムシ類に おける幼虫期の食性 ニッチ分化:安定同位 体による解析	B203○栗和田隆12・熊 野了州12・城本啓子12・ 原口大1 (沖縄病技セ1・琉球産 経2) アリモドキゾウムシの死 にまねに対する配偶行 動の影響	C203○加々美貴弘1・ 北條優2・佐々木哲彦3・ 佐々木正己1 (玉川大・農1・農生研2・ 玉川大・ミツバチ科学3) セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L.)の脳にお ける主要ローヤルゼリー タンパク質7の発現解析	D203○山根雅史1・豊 西宏章1・中村孝文1・矢 野栄二1 (近畿大・農1) 在来系統シヨクガタマバ エの休眠シグナル感受 期と休眠覚醒	E203○片山雅雄1・吉 島利則1・青木由美2・ 菅野亘3・望月文昭4 (富山農総セ農研1・富 山高岡農振セ2・中央農 研3・信越化学4) ダイズほ場のウコンノ メイガに対するフェロモ ントラップの設置条件と誘 殺数	F203○溝辺真1・鳥居絵理1・ 久野公子1・黒木尚1・寺本敏 1・今村幸久1 (宮崎総農試1) 育苗期のジノテフラン処理に よるキュウリ退緑黄化病の媒 介抑制効果
9:45	A204○山崎梓1・藤崎 憲治1 (京大院農・昆虫生態1) オオタバコガ幼虫の色 彩多型の決定要因と適 応的意義	B204○原野智広1 (九大院理・生態科学1) 近親交配は避けるべき か - アズキゾウムシにお ける近親交配とメスの交 尾行動	C204○小島直樹1・干 場英弘1・小野正人2 (玉川大農・教職1・玉川 大農・昆虫機能2) セイヨウオオマルハナバ チがもたらす新たな生 態リスク-社会寄生ワー カーによるオス生産の 可能性-	D204○大庭伸也1・高 木正洋1 (長大・熱研・病害動物 1) 日本産ゲンゴロウ類成 虫のボウフラに対する捕 食能力の評価	E204○土井誠1・杉山 恵太郎1・加藤光弘1・ 田上陽介2 (静岡防除所1・静岡大・ 農2) 静岡県におけるタバコ コナジラミのバイオタイ プの発生状況	F204○吉沢栄治1・金子政夫 1 (長野県果樹試験場1) スモモヒメシクイの生態と防 除に関する研究 4農薬の殺 虫力
10:00	A205○江頭桃子1・多 田茂男2・日本典秀3・西 東力1・田上陽介1 (静岡大・農1・函館西高 2・生物研3) ナガチャコガネ間接飛 翔筋二型の地理的変異 の遺伝子解析	B205○平山寛之1・粕 谷英一1 (九大院・理・生態1) アメンボの卵寄生リスク に応じた産卵深度の決 定	C205○光畑雅宏1・神 戸裕哉1・吉澤正太郎2・ 山中貴之2・佐々木正己 2 (アリスタライフサイエ ンス(株)1・玉川大・農・昆 虫機能2) ミツバチ不足を補うイチ ゴ等への在来種クロマ ルハナバチの利用	D205○田中陽子1・大 野和朗1・市川大輔1・内 田真貴1 (宮大農・応用昆虫1) 地域土着天敵の保護と 施設への導入:マルバ ツコクサでの捕食者群 集	E205○横須賀知之1・ 西宮智美1・青木一美 1・黒羽美穂子2・方波 見将司2・遠山宏和3・ 仲田道生4 (茨城農総セ農研1・茨 城農総セ生工研3・茨城 農総セ4) サツマイモにおけるタバ ココナジラミの発生と被 害	F205○石栗陽一1・榎田俊明 1 (青森農林総研りんご試1) リンゴ実内のモモンシクイガ 幼虫に対する低温処理の殺 虫効果
10:15	A206○所論史1・五箇 公一2・山根爽一1 (茨城大院・教育学1・国 立環境研2) ヒラタクワガタ <i>Dorcus titanus</i> における系統地 理学	B206○片山潤史1・藤 崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態 1) アメンボの卵寄生蜂に おける潜水行動のコス ト	C206○北條賢1・秋野 順治1・山岡亮平1 (京工繊大院・応用生物 1) クロオオアリワーカーに よる幼虫への世話行動 の調節	D206○嶽崎研1・林川 修二1・上野高敏2・高木 正見2 (鹿児島農総セ大隅1・ 九大農2) ミツバチを用いた天敵 微生物媒介によるアル ファファタコゾウムシ 防除の試み	E206○岡崎真一郎1・ 上田重文2・吉松英明1 (大分農林水産研1・九 沖農研2) トマト栽培でのオンシツ コナジラミ <i>Trialeurodes vaporariorum</i> 多発生の 要因解析	F206○村上芳照1・功刀幸博 1・望月文昭2・藤井達也2 (山梨果試1・信越化学2) 山梨県のブドウにおけるクビ アカスカシバとトリハ類の発生

3月29日(日) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G201○徳田岳1 (琉球大・分生研1) タカサゴシロアリの消化管内β-グルコシダーゼの性質	H201○小野亨1・仲島義貴2・Michael Birkett3・Wilf Powell3 (宮城古川農試1・帯広畜産大・昆虫2・Rothamsted Research3) ダイズ畑におけるアブラムシの性フェロモン成分に対する土着天敵の誘引性	I201○栗原潤1・伊原竜夫2・豊嶋悟郎1・萩原保身1 (長野野菜花き試1・長野南信農試2) 黄色粘着トラップを用いたナモグリバエの発消長調査	J201○真田幸代1・松村正哉1・野田博明2 (九州沖縄農研1・生物研2) ヒメトビウカの集団性比とスピロプラズマによる性比偏向	K201○平井規央1・坂本佳子1・石井実1 (大阪府大院・昆虫1) イチジクヒトリモドキの分布拡大と温度・日長反応	9:00
G202○坪田拓也1・下村勝1・清野敦1・小倉岳彦2・中倉貴代1・三田和英1・篠田徹郎1・塩月孝博1 (農生研1・京大院農2) カイコ幼若ホルモンエステラーゼ(jhe)類縁遺伝子と機能の解析	H202○中村淳1・荒川昭弘1 (福島農総セ1) キュウリのソルゴー困い栽培によるアブラムシ類の抑制効果	I202○伊原竜夫1・南島誠1・栗原潤2 (長野県南信農業試験場1・長野県野菜花き試験場佐久支場2) 長野県南信地域におけるナモグリバエの寄生蜂相	J202○野田博明1・渡部賢司1・行弘文子1・小泉蓉子1 (生物研1) ツマグロヨコバイの共生系とその解明に向けて	K202○新谷典子1・野村昌史2 (千葉大・園芸1・千葉大院・園芸2) キクキンウバの生活史、特に発消長と冬季の生態に関して	9:15
G203○孟艶1・勝間進1・大門高明1・伴野豊2・三田和英3・嶋田透1 (東大院農1・九大院農2・生物研3) カイコの「黄色体致死」変異体はBH4またはドーバミンの経口投与で生存できる	H203○太田泉1・本多健一郎1 (野茶研・野菜IPM1) イチゴハウスに置いたポリジ株上でのアブラムシと寄生蜂の種構成と発消長	I203○森宗孝1・石井直樹1・泉進1・安藤彰秀1・安富範雄1・有本裕2 (大塚化学株式会社1・理化学研究所2) 食用植物油を有効成分とした新規薬剤RM1963K乳剤のハダニ類、サビダニ類、ホコリダニ類の防除	J203○土田努1・古賀隆一2・Simon Jean Christophe3・深津武馬2 (理研1・産総研2・INRA3) 共生細菌が昆虫の体色を変える(1):アブラムシ新規共生細菌の発見とその影響	K203○野村昌史1・田端純2・杉江元2 (千葉大院園芸・応動昆1・農環研2) 原始的なキンウバ類、オオマダラウバの性フェロモン成分と休眠性	9:30
G204○堀金麻理1・本田洋1・テイラー・デマー1 (筑波大学・生命環境1) マダニOrnithodoros moubataのVitellogenin遺伝子とその転写制御因子の発現解析	H204○長澤淳彦1・樋口博也1 (中央農研北陸セ1) 食草がアカスジカスミカメの選好性に与える影響	I204○石井直樹1・森宗孝1・泉進1・安藤彰秀1・安富範雄1・有本裕2 (大塚化学(株)1・理化学研究所2) 食用植物油を有効成分とした新規薬剤RM1963K乳剤のコナジラミ類の防除	J204○古賀隆一1・土田努2・孟憲英1・花田智1・Simon Jean-Christophe3・深津武馬1 (産総研・生物機能1・理研・松本分子昆虫学研究室2・フランス・INRA3) 共生細菌が昆虫の体色を変える(2):新規二次共生細菌Rickettsiellaの宿主体内動態と微生物学的実体の解明	K204○伊藤桂1・中平賢吾12・友田真文1・児玉梨花1・福田達哉3・荒川良3 (JST高知1・国際農研2・高知大・農3) クロヒョウタンカスミカメ石垣個体群の発育日数に対する日長の効果	9:45
G205○本多佳子1・堀金麻理1・Taylor DeMar1 (筑波大・生命環境1) クサゲモの脱皮期におけるエクジソン受容体の解析	H205○奥谷恭代12・渡邊朋也3・東政明2 (鳥取農林総研農試1・鳥取大院2・中央農研3) アクトグラフを用いたアカスジカスミカメの日周活動の測定	I205○井口雅裕1・福嶋総子2 (和歌山農試1・和歌山県植防協会2) 色彩粘着トラップによるヒメハナカメシ類のモニタリング	J205○貝和菜穂美1・細川貴弘2・菊池義智2・深津武馬2 (国際基督教大学・教養1・産総研・生物機能工学2) キンカメシ類における腸内共生細菌及び二次共生細菌の解明	K205○東浦祥光1・中川浩二1・澤村信生2・山田剛3・中田健4・竹松葉子5・松尾和典6・湯川淳一7・桐谷圭治8 (山口農林総セ1・鳥根農技セ2・鳥取農林総研農試3・鳥取農林総研園試4・山大・農5・九大院・生資環・昆虫6・九大7・伊東市8) 中国地方におけるミナミアオカメシの分布拡大状況	10:00
G206○小滝豊美1・品田哲郎2・貝原加奈子2・大船泰史2・沼田英治2 (農生研1・大阪市大・院理2) カメシ類から得られた新規幼若ホルモンの構造決定	H206○松木伸浩1・三田村敏正1・田中一裕2・渡邊朋也3・浦川慶子4・加進丈二5 (福島農総セ1・宮城学院女子大2・中央農研3・宮城防除所4・宮城古川農試5) クモヘリカメシの低温耐性と分布北限	I206○石井俊彦1・森本輝一2・杉井信次1 (シンジェンタジャパン開発登録部1・シンジェンタジャパン研究部2) 新規殺虫・殺ダニ剤アバメクチンの生物学的特性II(アザミウマ目に対する効果)	J206○田中康次郎1・二河成男2・古川誠一3・佐々木哲彦3・深津武馬1 (産総研・生物機能工学1・放送大学2・玉川大学3) ボルバキアに感染するバクテリオファージのゲノム解析	K206○藪哲男1・濱崎貴史1 (石川農研1) 石川県におけるクモヘリカメシの分布拡大	10:15

3月29日(日) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:30	A207○井上真紀1・五箇公一1・砂村栄力2・田付貞洋2 (国立環境研究所1・東大院農・応用昆虫2) ミトコンドリアDNA解析によるアルゼンチンアリの遺伝構造の解明と侵入経路の推定	B207○安部淳1・上村佳孝2・West Stuart3 (岐阜大・応用生物1・慶応大・生物2・オックスフォード大・進化生物3) 寄生バチ <i>Melittobia</i> における産卵時性比と雌雄生産スケジュール	C207○西出雄大1・佐藤俊幸2・岩淵喜久男1 (東京農工大・農・応用昆虫1・東京農工大・農・動物行動2) 単為生殖・無女王アリにおける血縁認識	D207○小出哲哉1・中野義信2・廣戸誠一郎3・山口和広1 (愛知農総試1・知多農林水産事務所2・東三河農林水産事務所3) 秋冬キャベツにおけるシダクロスズメバチの天敵利用法	E207○井上広光1・富村健太1・岩波徹1 (果樹研1) ミカンキジラミによるカンキツグリーニング病原細菌の伝搬効率	F207 小池明1・中西友章1・渡辺雅夫2・松村澄子2・宮原佳彦3・市場芳隆4 (徳島県果樹研究所1・山口大・理2・生研センター3・ヤンマー農機4) 超音波利用による果樹の果実吸蛾被害防止効果
10:45	A208○山村光司1 (農環研1) Key-factor/key-stage分析のすすめ	B208○増田実1・山田佳廣1 (三重大生物資源・昆虫1) 異なる寄主齢に対する寄生蜂セグロカマバチの性配分と寄主選好	C208○渡邊正子1・小野正人1 (玉川大・農1) ヒメスズメバチの体臭成分に含まれるアシナガバチ類の忌避物質に関する研究(予報)	D208○上船雅義1・安部順一朗2・高林純示1 (京大・生態研1・近中四農研2) 減農薬ミズナ栽培における天敵誘引剤・活性化剤を用いたコナガ防除の実証試験	E208○篠原和孝1・上地義隆2・松比良邦彦3 (鹿児島防除所大島駐在1・喜界町役場2・鹿児島農総セ大島3) カンキツグリーニング病緊急防除におけるミカンキジラミの一斉防除と防除効果	F208○吉岡哲也1・堺田輝貴1・中國健太郎1 (福岡農総試八女1) ビリブロキシフェン剤の冬季散布によるクワシロカイガラムシの長期抑制効果
11:00	A209○藤條純夫1・ファオハンピヤワン1・大塚彰2 (佐賀大農1・中央農研2) ハスモンヨトウの消長・性状の変化と台風到来との関連	B209 LeKhac Hoang1・高須啓志2 (九大・院生資環1・九大・院農2) 幼虫寄生蜂オオタバコガコマユバチの糖の識別	C209○秋野順治1・西森拓2 (京工繊大・化学生態1・広島大・理2) 道しるべ動員系での隊列行進2:道しるべの分岐形成要因	D209○中山慧1・世古智一3・高月淳一2・宮竹貴久1・三浦一芸3 (岡大院環境・進化生態1・岡大農・進化生態2・近中四農研3) 飛翔能力に対する人為選抜がナメントウ <i>Harmonia axyridis</i> の歩行活動量に及ぼす影響	E209○宮路克彦1・松比良邦彦1・上和田秀美1・西菜穂子1・篠原和孝2・都外川総明3・堀江宏彰3 (鹿児島農総セ大島1・鹿児島防除所大島駐在2・鹿児島防除所3) カンキツグリーニング病初確認地域におけるミカンキジラミ保毒虫の分布	F209○外間康洋1・永山敦士1・新垣則雄1 (沖縄農研セ1) シロスジオササウシの効率的なサトウキビトラップの開発
11:15	A210○岩本啓秀1・佐藤智1・安田弘法1 (山形大・農1) ナス畑の生息場所の複雑さが節足動物個体数に及ぼす影響	B210○中嶋祐二1・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1) ホオズキカメムシが行う食草外産卵の適応的意義	C210○遠藤真太郎1・丸山宗利3・市野隆雄2 (信大院・総工1・信大理2・九大博3) クサアリ亜属5種におけるCHC組成とmtDNAの種間比較	D210○水久保隆之1・藤本岳人12・望月正巳3・富高保弘1・大場広輔1・津田新哉1・仲川晃生1 (中央農研1・京大・農学2・出光興産3) 非病原性フザリウム菌の茎接種によるトマトのネコブセンチュウ防除の可能性	E210○佐渡山安常1・宇久田理恵1・渡久山みき2・澤岨哲也1・亀川藍1・与那嶺要1・上地奈美3 (沖縄農研センター1・沖縄県・科学技術振興課2・独)・果樹研究所3) カンキツグリーニング病一斉防除後の発病樹と保毒虫の発生推移	F210 谷口昌弘1・島谷真幸1・児玉博聖1・大城良計1 (沖縄防技セ1) イモソウムシとアリモドキゾウムシの薬剤感受性試験
11:30	A211○片山昇1・北條賢2・土田努3・大串隆之1 (京大・生態研センター1・京都工芸繊維大・工芸学部2・理化学研究所3) マメアブラムシにおける甘露タイプとアリ随伴性の種内変異	B211○馬場成実1・弘中満太郎2・野間口眞太郎4・日下部宜弘3・河口豊3・上野高敏1 (九大院・生防研1・浜松医大・生物2・九大・農3・佐賀大・農4) 2種類の栄養卵・シロヘリツチカメムシの独特な栄養卵産生スケジュール	C211○手塚俊行1・小原慎司1 (株式会社 アグリ総研1) クロマルハナバチの新たな放飼方法1	D211○市川大輔1・大野和朗1・田中陽子1 (宮崎大・農1) 地域天敵資源の有効利用:天敵温存植物としてのソルゴーの評価	E211○安田慶次1・与那嶺要1・河野伸二1・亀川藍1・宇久田理恵1・佐渡山安常1・上地奈美2 (沖縄農研センター1・独)・果樹試2) カンキツグリーニング病(HLB)細菌を保毒したミカンキジラミのミカンキジラミへの飛来とHLBの発病との関係	F211○中野潔1 (新潟園芸研1) スナムグリヒョウタンソウムシ成虫の薬剤感受性
11:45	A212○比留間脩1・安田弘法1・斉藤正一2・上野満2 (山形大・農1・山形森林センター2) 温暖化がもたらす時間的隠れ家による天敵からのエスケープ - カッラルマルカイガラムシ大発生メカニズムの仮説 -	B212○向井裕美1・弘中満太郎2・馬場成実3・稲富弘一1・早川洋一1・野間口眞太郎1 (佐賀大・農1・浜松医大・生物2・九大・生防研3) 亜社会性ベニツチカメムシの行動変化に伴う脳内アミン濃度の変動	C212○小原慎司1・手塚俊行1 (株式会社 アグリ総研1) クロマルハナバチの新たな放飼方法2	D212○広瀬義躬1・本多洋史2 (九大1・東京都世田谷区2) 鎮守の森に温存される果樹カメムシ類の卵寄生蜂越冬集団	E212○上地奈美1・岩波徹1 (果樹研・カンキツグリーニング病1) ゲッキツ未展開葉と交尾経験がミカンキジラミ雌成虫の卵巣成熟に及ぼす影響	F212○善正二郎1・中島貞彦1・田代暢哉1 (佐賀県上場営農センター1) 数種殺虫剤のネギアザミウマ (<i>Thrips tabaci</i>) に対する残効期間とIris yellow spot virus (IYSV) 感染阻止効果

3月29日(日) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G207○平野翔1・永田晋治1・石川幸男1 (東大院・農1) キボシカミキリの血リンパ中に存在する匂い結合タンパク質の解析	H207○樋口博也1・福山真希2 (中央農研セ北陸1・三共アグリ2) アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメの越冬世代幼虫の発生時期	I207○山岸正明1・原口大1・大城良計1・金城邦夫1・河村太1・親富祖明1・兒玉博聖1・松山隆志2・小濱継雄2 (沖縄県病害虫センター1・沖縄県農研センター2) 台湾からのウリミバエ野生虫の輸入と大量飼育系統の選抜	J207○古川誠一1・田中康次郎2・加藤秀之1・深津武馬2・佐々木哲彦1 (玉川大1・産総研2) ボルバキアWOファージの溶菌サイクルについて	K207○泉洋平1・舟山健2・中田健3・積木久明1 (岡山大・資生研1・秋田農水技セ果樹試2・鳥取農総研園試3) クサギカメムシとチャバネアカカメムシの低温耐性の比較	10:30
G208 四方雅人1・吉村亮一1・遠藤泰久1 (京都工繊大・応用生物1) 蚊培養細胞におけるギャップ結合関連タンパク質イネキシンのヘミチャネル機能解析	H208○菅野亘1・奥圭子1・田淵研1・石崎摩美1・安田哲也1・渡邊朋也1・武田藍2 (中央農研1・千葉農林総研2) アカスジカスミカメ雌成虫の性成熟・交尾と移動分散との関係	I208○小濱継雄1・松山隆志1・宮里千尋1・久場洋之2・舞木紀玲3・小林彩4 (沖縄農研セ1・沖縄科技振興セ2・沖縄農水部3・沖縄八重山普及セ4) 不妊虫放飼法による与那国島のナスミバエ根絶防除の現状	J208○涌井茜1・北出理1 (茨城大・理1) ヤマトシロアリ属創設コロニーにおける共生鞭毛虫の幼虫への感染様式	K208○竹田佳都頭1・Dmitry Musolin1・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1) 気候温暖化がミナミアオカメムシの越冬成功と繁殖開始に及ぼす影響	10:45
G209○龍田勝輔1・谷村禎一2・早川洋一1 (佐賀大農・応用生物1・九州大理・生物学2) キロショウジョウバエの摂食行動調節に関わるCG33071遺伝子の解析	H209○石本万寿広1 (新潟農総研・作物研1) アカスジカスミカメのイネに対する産卵能力	I209○加進丈二1 (宮城古川農試1) ダイズにおけるフタスジハムシの発生消長と飛翔行動	J209○松浦優1・古賀隆一2・孟憲英2・花田智2・深津武馬2 (筑波大・生命環境1・産総研・生物機能工学2) ワラジカイガラムシ類の共生細菌および複合内部共生系の解明	K209○田島潤也1・宮原亮平1・新谷喜紀1 (南九州大院・園芸昆虫1) ブチヒゲクロカスミカメの卵休眠	11:00
G210○小野肇1・西田律夫1・O'Connor Michael B.2 (京大院・農1・HHMI/University of Minnesota2) ショウジョウバエにおけるホルモン分泌操作によるエクダイソンの機能解析	H210○桐谷幸生1・山田英一1 (三共アグリ株式会社1) 水稻の乳熟期における斑点米カメムシ類の加害時期判定法	I210○親富祖明1・山岸正明1 (沖縄県病害虫センター1) イモゾウムシの人工飼料による採卵法の改良	J210○安佛尚志1・深津武馬1 (産総研・生物機能工学1) なぜ共生細菌スピロプラズマは宿主の免疫システムによって排除されないのか	K210○田中誠二1・山岸正明2 (農生研・バッタ研究室1・沖縄県病害虫センター2) 沖縄県伊平屋島における大発生後のトノサマバッタの形態と越冬生態	11:15
G211○宇高寛子1・上田千晶1・後藤慎介1 (大阪市大・院理1) キロショウジョウバエの温度耐性・麻痺からの回復時間と生存率	H211○橋本庸三1 (北海道中央農試1) イネの出穂期と割れ肋がアカヒゲホソミドリカスミカメの発生密度と斑点米発生に及ぼす影響	I211○城本啓子12・熊野了州12・栗和田隆12・川村清久12・原口大1 (沖縄防技セ1・琉球産研2) アリモドキゾウムシの色彩多型を用いたマーキング法の可能性について	J211○大野智恵1・刑部正博1 (京大・農・生態情報1) 人工飼料によるチリカブリダニの発育	K211○原野健一1・田中誠二1・渡康彦2・齋藤治2 (農生研・バッタ研1・芦屋大・臨床教育2) トノサマバッタ1齢幼虫の活動性における相変異	11:30
G212○三浦健1・亀崎将司1・横井翔1・鈴木正洋2・中松豊1・田中利治1 (名大院・生命農・害虫制御1・ケンタッキー大2) アポトーシス抑制因子・ICADとI4-3-3タンパク質のアワヨトウからのcDNAクローニングと機能解析	H212○吉島利則1・片山雅雄1 (富山農総セ農研1) アカヒゲホソミドリカスミカメ第2世代成虫の水田侵入量予測の可能性	I212○宮里千尋1・小濱継雄1・松山隆志1 (沖縄農研セ1) 脂溶性色素を使ったアリモドキゾウムシ成虫の体内マーキング法	J212○日本典秀1 (生物研1) 多数ハダニ集団中に混在するイシイナミハダニの検出	K212○竹中志保1・白木隆士1・伊餘田航希1・原田哲夫1 (高知大教育・環境生理1) 様々な温度下での四万十市産と高知産アメンボの胚発生と温暖化現象	11:45

3月29日(日) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
13:00	A213○佐藤信輔1・津田清2・湯川淳一1 (九大1・南さつ市2) 九州におけるブナタマバエ類(双翅目:タマバエ科)の衰退	B213○井濃内順1 (農業生物資源研究所1) ゴキブリの匂い行動発現に関わる脳神経情報の解析	C213○沓掛磨也子1・柴尾晴信2・植松圭吾2・深津武馬1 (産総研・生物機能工学1・東大院・総合文化2) 社会性アブラムシの兵隊階級によるゴール修復と植物組織の再生誘導	D213○齋藤裕1・辻宣行2・チッテンデンアンソニー2 (北大院農・動物生態1・北大CENSUS・SGP2) 1捕食者・2被食者・2植物系の安定性	E213○小堀陽一1・中田唯文1・大藤泰雄1 (国際農研・熱帯島嶼1) ミカンキジラミ成虫の移動分散とそれに及ぼす寄生樹の新芽の影響	F213○島克弥1・白石慎1・山本明2・尾上美和2 (デュボン株式会社1・北興化学(株)・開発研究所2) 新規殺虫剤クロラントリブロールに関する研究(第3報) 防除特性(1) - DK1 - 0001フロアブルの茎葉散布における防除特性 -
13:15	A214○末永博1・長ケ原智1 (鹿児島農開セ・茶業部1) 有機および慣行栽培茶園の地表徘徊性捕食者の生物多様性	B214○高梨琢磨1・中牟田潔1・SkalsNeils2・西野浩史3 (森林総研1・南デンマーク大2・北大・電子研3) マツノマダラカミキリの振動反応性とその受容器としての腿節内弦音器官	C214○藤田愛1・北條優1・青柳哲夫1・荒川岳2・林良信1・徳田岳2・渡辺裕文1 (独)農業生物資源研1・琉球大学 2) 木質バイオマス利用システム構築のためのシロアリ中腸消化機構の解明	D214○田中律子1・近藤章1 (岡山農総セ1) 施設栽培バラにおける天敵を活用したハダニ類の防除	E214○市瀬克也1・小堀陽一1・大藤泰雄1・Doan VanBang2・Nguyen Thi TranThao2・Nguyen MinhChau2 (国際農研1・南部果樹研2) 共分散構造分析によるグリーンング病感染危険率事後評価モデル	F214○山本明1・尾上美和1・白石慎2・島克弥2 (北興化学工業1・デュボン2) 新規殺虫剤クロラントリブロールに関する研究(第4報) 防除特性(2) - DK1 - 0001フロアブルの灌注処理における防除特性 -
13:30	A215○塚本敬之1・重藤貴志1・佐藤智1・粕淵辰昭1・藤井弘志1・生井恒雄1・長谷修1・服部聡1・佐々木由佳1・荒生秀紀1・安田弘法1・上野清2・松田裕之2 (山形大・農1・山形県農業総合研究センター2) 化学的及び物理的除草が水田生態系の生物多様性と米の収量に及ぼす影響	B215○砂村栄力1・鈴木俊1・寺山守1・田付貞洋1・坂本洋典4・北出理2・エスバダレールハビエル3 (東大院農・応用昆虫1・茨城大・理2・バルセロナ大3・農環研4) アルゼンチンアリ日本個体群の社会構造および海外個体群との行動学的関係	C215○米谷衣代1・上船雅義1・高林純示1 (京大・生態研センター1) コナガ幼虫食害株に対する寄生蜂の誘引性一植物種特異性について	D215○榎本祐介1・桃下光敏2・西東力1・田上陽介1 (静岡大・農1・アリストライフサイエンス2) スワルスキーカブリダニの行動に影響を与える要因	E215○菊地淳志1 (近中四農研1) ホソヘリカメムシの加害ステージとダイズの青立ちとの関係	F215○根本久1・松本隆一2 (埼玉県農林総合研究センター1・昭和電気2) 飛行攪乱ランプ利用によるタバココナジラミの侵入阻止効果について
13:45	A216○中村達1・一木良子1・小西和彦2・高野俊一郎3・高須啓志4 (国際農研1・北農研2・九大・生資環3・九大・農4) 伝統的生物的防除の実践:東南アジアへの侵入害虫キムネクロナガハムシへの対策	B216○清水信孝1・中村利宣1・堤隆文1 (福岡農総試1) ミナミアオカメムシ雄成虫の同種およびアオクサカメムシに対する誘引性	C216○岡本朋子1・奥山雄大2・加藤真1 (京大院 人環1・若手生工研2) チャルメルソウ節植物の花の匂いがもたらす生殖隔離機構	D216○川島充博1・ChoiKyungHee2・JungChuleui1 (韓国・安東大・昆虫生態1・韓国・リンゴ研究所2) 地表におけるミヤコカブリダニの冬季滞在位置および生存率に及ぼす覆いの影響	E216○山中武彦1・手柴真弓2・堤隆文2・津田みどり3 (農環研1・福岡県農総試2・九大・生防研3) 果樹カメムシ誘導防除の可能性と被害の空間解析	F216○行徳裕1・樋口聡志1・林田慎一1 (熊本農研セ1) タバココナジラミが媒介するメロン退緑黄化病の防除対策
14:00	A217○Oo Thi Tar1・一木良子1・中村達1・高野俊一郎2 (JIRCAS1・Kyushu Univ.2) キムネクロナガハムシの蛹寄生蜂Tetrastichus brontispaeの生態	B217○遠藤信幸1・武藤進悦2・佐々木力也2・安田哲也3・水谷信夫3 (九州沖縄農研1・富士フレイバー(株)2・中央農研3) ミナミアオカメムシ合成フェロモンの野外での誘引性	C217○小嶋健1・佐久間正幸1 (京大院農・昆虫生理1) ケナガコナダニの匂い源への局在と匂いの濃度およびパッチサイズとの関係	D217○宮田将秀1・丹野美和1・山中聡2・桃下光敏2 (宮城農園研1・アリストライフサイエンス(株)2) ナスのアザミウマ類およびオンシツコナジラミに対するスワルスキーカブリダニを基幹とした防除	E217○鈴木俊郎1・市橋秀幸1・妙楽崇2 (岐阜農技セ1・岐阜防除所2) フェロモントラップによるフジコナカイガラムシの次世代幼虫発生時期の予測	F217 宮山仁史1・○糸山享1 (明治大農・応用昆虫1) ホウレンソウケナガコナダニに対する有効薬剤の探索と評価
14:15	A218○高野俊一郎1・高須啓志2・中村達3 (九大・生資環1・九大・農2・国際農研3) キムネクロナガハムシの寄主選好性について	B218○板谷弘樹1・上野高敏1 (九大院農・生防研1) 水田の主要ヒメバチ科寄生蜂の性フェロモンとそれが決定する交尾時期及び行動	C218○竹本裕之1・高林純示1・Powell Wilf2・Pickett John2・戒能洋一3 (京大生態研1・ロザムステッドリサーチ2・筑波大・生命環境3) 寄主被害植物が放出するエルビアブラバチ誘引物質の誘導機構	D218○富所康広1・磯田宏治1 (三重農業研・茶業研究室1) 点滴灌水を利用した茶園のケナガカブリダニの保護利用	E218○森光太郎1・富田憲司2・細田一史2・四方哲也123 (阪大院生命機能1・阪大院情報科学2・ERATO, JST3) 原生動物テトラヒメナと大腸菌からなる実験共生系の構築と解析	F218○和田節1・松倉啓一郎1・渡部哲夫2 (九州沖縄農研1・日本化薬2) 直播水稻でのスクリソガイ防除剤 - 如何に持続効果を高めるか

3月29日(日) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G213○亀崎将司1・横井翔1・吉田龍博1・鈴木正洋2・中松豊1・田中利治1・三浦健1(名大院農・害虫制御1・ケンタッキー大2)アワヨトウのアポトーシス抑制因子・IAPのcDNAクローニングと機能解析	H213○吉岡明良1・高田まゆら1・鷺谷いづみ1(東大院・農学生命1)転作地・休耕地におけるアカスジカスミカメの密度を決める要因の解明	I213○原口大1・小濱継雄2・河村太1・金城邦夫1・親富祖明1・大城良計1・山岸正明1(沖縄防技セ1・沖縄農研セ2)久米島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除	J213○後藤慎介1・河上祐子1・沼田英治1・伊藤桂2(大阪市大・院理1・JST高知2)ナミハダニ休眠性の地理的変異と遺伝学的解析	K213○原田哲夫1・関本岳朗1・大角裕貴1・竹中志保1・片桐千仍2(高知大教育・環境生理1・北大・低温研2)西部熱帯太平洋及び東部熱帯インド洋に棲息するツヤウミアメンボの高温耐性	13:00
G214○横井 翔1・鈴木正洋2・中松豊1・田中利治1・三浦健1(名大院・生命農・害虫制御1・ケンタッキー大2)アワヨトウ血球で発現する2種の膜タンパク質のcDNAクローニングと機能解析	H214○武田藍1・菅野亘2・奥圭子2・安田哲也2・田淵研2・石崎摩美2・渡邊朋也2・福田寛3(千葉農林総研1・中央農研2・千葉県農林水産部3)発生源からの距離がアカスジカスミカメの水田内密度と被害に及ぼす影響	I214○金城邦夫1・大城良計1・山岸正明1・河村太1・親富祖明1・原口大1・宮城聡1(沖縄病害虫セ1)津堅島におけるゾウムシ類根絶防除事業の状況と課題	J214 藤井雅実1・大矢武志2・北嶋康樹1・○後藤哲雄1(茨城大・農・応動昆1・神奈川県農技セ2)ハダニ17種のイチゴ20品種に対する寄生性の比較	K214○津田宗一郎1・高木正見1・下山朗1・黒瀬大介1・古谷成人1(九大院農1)イタドリマダラキジラミの越冬生態	13:15
G215○吉田龍博1・加藤良晃1・横井翔1・鈴木正洋2・中松豊1・田中利治1・三浦健1(名大院・生命農・害虫制御1・ケンタッキー大2)アワヨトウの2種のフェノール酸化酵素前駆体のcDNAクローニングと発現・機能解析	H215○木村勇司1・市田忠夫1(青森農林総研1)斑点米の水田内分布と穂サンプリングによる斑点米率の推定	I215○河村太1・原口大1・親富祖明1・大城良計1・山岸正明1(沖縄防技セ1)久米島不妊虫放飼区域におけるイモゾウムシの発生状況	J215○北嶋康樹1・後藤哲雄1(茨城大・農・応動昆1)ポリジの混植と花粉の有無がイチゴにおける天敵類の行動と定着性に及ぼす影響	K215○吉田和弘1・星川和夫2・和田節3・遊佐陽一4(鳥取大・連合農1・島根大・生物資源2・九州沖縄農研3・奈良女子大・理4)寒冷地の水田におけるスクミリンゴガイの生活環	13:30
G216○加藤良晃1・吉田龍博1・横井翔2・鈴木正洋3・中松豊2・田中利治2・三浦健2(名大農1・名大院・生命農・害虫制御2・ケンタッキー大3)アワヨトウ幼虫体液中の特異な形態と挙動を示す血球について	H216○藤井達也1・望月文昭1・福本毅彦1・長澤淳彦2・高橋明彦2・樋口博也2(信越化学1・中央農研・北陸研究セ2)アカヒゲホソミドリカスミカメ雌成虫性誘引活性の再検討	I216○高木正見1・川本旭1・櫻井玄1・上野高敏1・高田裕司2・福吉賢三2・松尾和敏2・柏尾具俊3(九大・農・生防研1・長崎総農林試2・九州沖縄農研3)諫早湾干拓地におけるジャガイモ主要害虫の減農薬防除技術の開発 (1) 土着天敵の保護利用によるアブラムシ類の生物的防除	J216 近藤知弥1・○口木文孝1・井手洋一1(佐賀果樹試1)佐賀県の露地カンキツにおけるミカンハダニの薬剤感受性	K216○中村圭司1(岡山理科大学1)テラニシシリアゲアリにおける幼虫休眠の誘導と女王の低温経験の関係	13:45
G217○平野文守1・竹田真木生1(神戸大農・昆虫1)飢餓・再摂食から考察するワモンゴキブリ中腸細胞の増殖制御機構・食物摂取・栄養貯蓄器官との関連	H217○渡邊朋也1・安田哲也1・武田藍2・奥圭子1・菅野亘1・田淵研1・石崎摩美1・福田寛3・樋口博也4・高橋明彦4・望月文昭5(中央農研1・千葉農林総研2・千葉県農林水産部3・中央農研・北陸セ4・信越化学5)アカスジカスミカメ合成性フェロモントラップの開発と水田内の発生产長調査	I217○高田裕司1・柏尾具俊2・福吉賢三1・松尾和敏1・高木正見3・桜井玄3・川本旭3(長崎総農林試1・九州沖縄農研2・九州大院生防3)諫早湾干拓地におけるジャガイモ主要害虫の減農薬防除技術の開発 2) 黄色灯による大規模露地ほ場の効率的なヤガ類被害低減技術の開発	J217○近藤知弥1・口木文孝1・井手洋一1(佐賀果試1)佐賀県の施設ナシ園におけるカンザワハダニの薬剤感受性	K217○金子修治1(静岡農林技研果樹研セ1)農業の使用程度が異なるカンキツ園におけるテントウムシ類とアリ類、クモ類の発生状況	14:00
G218○車地健太郎1・後藤千枝2・国見裕久1・仲井まどか1(農工大院・農1・中央農研センター2)シロモンヤガ顆粒病ウイルスによる宿主発育制御機構の解明	H218○高橋明彦1・樋口博也1・吉村具子2・石本万寿広3・山代千加子3・吉島利則4・片山雅雄4・野口忠久5・望月文昭6・福本毅彦6(北陸研究セ1・山形農総研2・新潟農総研・作物研3・富山農技セ4・長野農事試5・信越化学6)アカヒゲホソミドリカスミカメのフェロモントラップ誘殺数を用いた斑点米被害の予測	I218○長坂幸吉1・安部順一朗2・尾島一史2・田中和夫3(中央農研1・近農研2・九農研3)コマツナ周年無農薬栽培における害虫の発生と対策、特にコウチュウ類対策	J218○松尾忠信1・上杉龍士1・刑部正博1(京大院農・生態情報1)マイクロサテライトによる殺ダニ剤抵抗性遺伝子のマッピングの試み	K218○郡麻里1・辻宣行2・杉山隆史3・伊藤文紀4・五箇公一1(国環研・環境リスク1・北大・SGP2・フマキラー(株)3・香川大・農4)特定外来生物アルゼンチンアリの防除に向けた潜在的国内侵入地域の推定	14:15

3月29日(日) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
14:30	A219○山下 藍1・高須啓志2 (九州大学 生物資源環境科学府 1・九州大学大学院農学研究2) ココヤシ害虫キムネコナガハムシにおける新芽の餌としての適合性	B219○鈴木丈詞1・竹田真木生1 (神戸大・自然科学1) ナミハダニの紫外線耐性;休眠との関係	C219○所雅彦1・北島博1 (森林総研・森林昆虫1) 菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエの配偶行動解析と性フェロモンの探索	D219○横山とも子1・伊東靖之1・松本健一2・大崎憲生2 (千葉農林総研1・アグロカネショウ2) 乳花病菌を用いたベイト製剤の開発	E219○多田野寛人1・山崎百合香1・竹内秀明1・久保健雄1 (東大・院理・生物科学1) ミツバチの脳で分業依存に発現変動する新規非翻訳性 RNA & Nb-1 の同定と解析	F219○宮竹貴久1・淵側太郎1・真田幸代2・大田由衣1・西尾良平1・松本顕3・松山隆志4・山岸正明5・谷村禎一6 (岡大院・環境・進化生態1・九州沖縄農研2・九大・高教センター3・沖縄農研4・沖縄防技5・九大院・理・生物6) 不妊虫放飼法と時計遺伝子:ウリミバエ cry 遺伝子のアミノ酸置換と遺伝子発現パターンと交尾開始時刻
14:45	A220○飯田博之1・北村登史雄1・本多健一郎1 (野菜茶研・野菜IPM1) タバココナジラミバイオタイプBおよびQの成長と成虫の体サイズに対する温度の影響	B220○奥村悦子1・田中龍星1・吉賀豊司1・近藤栄造1 (佐賀大・農1) <i>Caenorhabditis japonica</i> 耐久型幼虫がベニツチカメムシから離脱する要因	C220 岡田公太郎1・佐久間正幸1 (京大院農・昆虫生理1) 整流を用いた生理学用高精度匂い刺激装置の試作	D220○楢田龍星1・原田祐樹1・吉田睦浩2・近藤栄造1・吉賀豊司1 (佐賀大農・線虫1・中央農研2) 日本産 <i>Steinernema</i> 属線虫と共生関係をもつ <i>Xenorhabdus</i> 属細菌の同定	E220○植村紗矢子1・糸山享1 (明治大農・応用昆虫1) アカヒゲホソミドリカミカメにおけるビテロジェニン遺伝子の単離と解析	F220○江本暁1・城下道昭1・中西秀明1・中倉紀彦1・下城英一1・佐藤朋子1 (バリエルクroppサイエンス1) 新規殺虫剤スピロテラマト (BCI-071フロアブル)の生物学的特性
15:00	A221○五箇公一1・宇根有美2・鈴木一隆1・中原美理1・小林亜玲1・横山潤3・D HyattAlex4 (国立環境研1・麻布大2・山形大3・CSIRO4) カエルツボカビはカエルを滅ぼすのか?	B221○深澤直人1・土屋聡志1・今井利宏1 (JT 葉たばこ研1) タバコシバンムシの日周活動	C221○石井啓介1・浅原麻希子1・高山光男1 (横浜市国際・理1) クロヤマアリにおける体表炭化水素プロファイルの季節変動	D221○石川巖1・高橋真秀1・仲井まどか1・国見裕久1 (農工大院・農1) 2種のコガネムシ科幼虫より分離されたリケツアの性状解析	E221○城所久良子1・新美輝幸2・柳沼利信2・山本公子1・小瀬川英一1・伴野豊3・三田和英1・門野敬子1 (生物研1・名大院生命農2・九大院農3) カイコ卵休眠遺伝子 <i>pnd</i> , <i>pnd-2</i> の解析	F221○城下道昭1・中西秀明1・小野田晃治1・砂川崇1・山下修宏1・服部ゆみ1 (バリエルクroppサイエンス1) 新規殺虫剤スピロテラマト (BCI-071フロアブル)の圃場における評価
15:15	A222○田上陽介1・小林雅之1・西東力1・秦珠子2・大場裕一3 (静岡大院・農1・農生研2・名古屋大・農3) ニッポンヒラタキ/コバエの生態報告I	B222○鈴木智尚1・堀雅敏1・増田俊雄2 (東北大院農・生物制御1・宮城農園研2) アングロハモグリバエの吸汁・産卵行動および羽化に関する研究	C222○藤木悠里1・辻和希2・藤原直1・秋野順治1・山岡亮平1 (京工繊大・化学生態1・琉球大・農2) 日本産トゲオオハリアリにおけるgamergateの認識と体表炭化水素との関係	D222○畠山吉則1・小田幸幸1・戎谷壮三郎1・岩井秀樹2・後藤千枝2・島津光明3・岩野秀俊1 (日大生物資源1・中央農研2・森林総研3) キアゲハから分離された微胞子虫株の系統分類学的解析	E222○菊田真吾1・萩原優香2・黄川田隆洋2・野田博明12 (東大院・新領域1・生物研2) トビイロウンカの吸汁に伴うSugar transporter 遺伝子の発現変化	F222○林川修二1・嶽崎研1・馬門克明1 (鹿児島農総セ1) クロチアニジン粒剤のカンショのコガネムシ類に対する効果1
15:30	A223○岡部貴美子1・田淵研2・牧野俊一1 (森林総研1・中央農研2) 生態サービス評価のためのドロバチの飼育法の開発	B223○渡康彦1・田中一裕2 (芦屋大・臨床教育1・宮城学院女子大・学芸2) タマネギバエの羽化リズム—温度周期と光周期、より強い時刻信号はどちらか?	C223○笹川浩美1234・所雅彦5・山の中明2・門脇辰彦6・奥田隆7・山岡亮平8・西田雅美1・中野良一1 (JSF科学技術館1・山口大学院2・国際科学振興財団FAIS3・東京都神経研4・森林総研5・名大院6・農生資研7・京工繊大院8) 昆虫類の社会性行動、生理・生態・化学生態学研究与ヒトの科学コミュニケーション	D223○Le Thanh Thao1・Hatakeyama Yoshinori2・Nakai Madoka1・Iwano Hidetoshi2・Kunimi Yasuhisa1 (Tokyo Univ. Agri. & Tech.1・Nihon Univ.2) Characterization of a microsporidium isolated from <i>Spodoptera litura</i> collected in Vietnam and its relationship with a nucleopolyhedrovirus	E223○小野慎子1・佐原健1・浅野真一郎1・伴戸久徳1 (北大院農・応用分子昆虫1) バキュロウイルス前初期遺伝子 <i>me53</i> の機能解析: ウイルス増殖と前初期遺伝子発現制御に与える影響	F223○岩田淳1・坂本えみ子1・馬門克明2・林川修二2 (住友化学1・鹿児島農総セ大隅2) クロチアニジン粒剤のカンショのコガネムシ類に対する効果2
15:45	A224○酒居勇太1・刑部正博1 (京大院農・生態情報1) ナミハダニは太陽光中の紫外線避けるのか?	B224○鶴井香織1・西田隆義1 (京大院農・昆虫生態1) なぜ分断紋が無いオスがにいるのか? カムフラージュと求愛ハラスメントのトレードオフ	C224○加藤哲也1・鳥山欽哉1・小川智久2・堀雅敏1 (東北大院農1・東北大院生命2) ナガイモレクチンDB1の害虫抵抗性遺伝子としての利用	D224○西大海1・飯山和弘2・青木智佐2・清水進2 (九大農・天敵微生物1・九大院農・天敵微生物2) 九州の土壌から分離した <i>Metarhizium</i> 属糸状菌の系統解析と形態的特徴	E224○松本宜晃1・小泉蓉子2・佐藤友紀2・野田博明12 (東大院・新領域1・生物研2) トビイロウンカの口器EST解析と吸汁関連遺伝子の探索	F224○金崎秀司1・崎山進二1・宮下裕司1 (愛媛農水研果樹研セ1) 瀬戸内海沿岸部において分布拡大中のミカンバエ - 発生生態と防除対策 - 1)愛媛県における発生の現状、トラップ調査及び薬剤防除

3月29日(日) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G219 ○大村尚1・本田計一1・朝岡潔2・井上A. 尚2 (広島大・院・生物圏1・農業生物資源研2) ツマグロヒョウモン成虫脚ふ節の味覚・食物中の糖および発酵産物への応答	H219 ○香西宏1・矢野清1・青木英子1 (香川県病害虫防除所1) 香川県における斑点米カメムシ類と斑点米被害の関係及び有効な防除法	I219 ○穴澤拓末1・佐々木正剛1 (福島農総セ果樹研1) モモ園におけるゴミムシ類の種類と防除圧の関係	J219 ○上杉龍士1・松尾忠信1・刑部正博1 (京大院農・生態情報1) <i>Tetranychus</i> 属のハダニにおける染色体地図の構築	K219 ○佐藤幸恵1・望月淳1 (農環研1) 海外からの導入天敵カブリダニ2種と土着天敵キイカブリダニとのギルド内捕食関係	14:30
G220 ○中原雄一1・Gusev Oleg1・岩田健一12・金森保志1・光増可奈子1・Cornette Richard1・渡邊匡彦1・黄川田隆洋1 (農生研1・国立がんセンター2) ネムリユスリカのアンヒドロピオシスと細胞のダメージ	H220 ○櫻井民人1・榎原充隆1 (東北農研1) 割れ粉少発条件下での斑点米発生における水稻品種およびカスミカメ種間差	I220 ○山本希枝1・内田真貴1・岸本英成2・大野和朗1 (宮崎大農・応用昆虫1・果樹研カンキツ2) 施設ナス栽培におけるBiointensive-IPM:土着天敵の発生	J220 ○山地佳代子123・辻尚利2・三好猛晴2・竹中昭雄13・藤崎幸蔵45 (筑波大1・動衛研・寄生虫2・畜草研・分子栄養3・帯畜大・原虫研センター4・鹿児島大・先端獣医5) マダニシスタチン3種の酵素阻害性状と局在	K220 沼倉由香里1・片桐昂史1・足達太郎1 (東京農大・熱帯作物保護1) マングローブにおける人間活動がカイガラムシ群集におよぼす影響	14:45
G221 ○コルネットリジャー1・金森保志1・グセフオレグ1・中原雄一1・藤田昭彦1・渡邊匡彦1・黄川田隆洋1・奥田隆1 (農生研1) ネムリユスリカの乾燥耐性関連ESTデータベースの解析、及び乾燥耐性関連遺伝子に対する機能解析の試み	H221 ○高橋良知1・菊池英樹1・新山徳光2・糸山享3 (秋田農技セ農試1・秋田防除所2・明治大・農3) カスミカメムシ類による斑点米被害を低減できる畦畔防除技術	I221 ○豊嶋悟郎1・桑澤久仁厚2・辰ノ口昌弘3・小川章4 (長野野花試1・長野県農業技術課2・松本農改C3・長野病害虫防除所4) ワサビに発生するヒロバコナガの発生生態と土着天敵による密度抑制	J221 ○佐野敏広1・田中律子1・長森茂之2 (岡山農総セ1・岡山農業普及指導セ2) 岡山県の各種作物に発生するナミハダニ黄緑型の薬剤感受性の現状	K221 ○榎原充隆1 (東北農研1) ダイズ畑の環境指標としてのゴミムシ類	15:00
G222 Gusev Oleg1・小林貞2・中原雄一1・岩田健一1・Cornette Richard1・金森保志1・黄川田隆洋1・村路雅彦1・奥田隆1 (農業生物資源研究所1・川崎市2) ネムリユスリカの系統地理学的研究:ナイジェリアとマラウィ個体群間の比較	H222 ○小林徹也1・鬼頭英樹1 (東北農研1) カメムシ類の加害によって生じる斑点米の内生細菌の同定	I222 ○柳沼勝彦1・井原史雄2・山口幸雄3 (果樹研・リンゴ1・果樹研・つくば2・日本農業資料3) ナシとメシクイおよびモモシンクイガの果実袋への産卵と産下卵のふ化	J222 ○吉岡主税1・北嶋康樹1・野田博明2・後藤哲雄1 (茨城大・農・応動昆1・生資研2) ハダニにおける共生微生物の感染状況及び多重感染個体群における微生物の作用	K222 ○松本和馬1・斉藤三郎2・日野輝明1・阿部晃久2・新妻靖章2 (森林総合研究所1・名城大2) 薪炭林施業が行われている里山林のゴミムシ類群集	15:15
G223 ○星野啓太1・岩淵喜久男2 (感染研・昆虫医科学1・農工大・応用昆虫学2) ブドウトラカミキリ血液細胞における遺伝子発現の内分泌学的解析	H223 ○柴卓也1・菅原幸哉1・荒川明1・神田健一1 (畜産草地研究所1) 植物共生糸状菌 <i>Neotyphodium occultans</i> のアカヒゲホソドリカスミカメ防除素材として有効性の評価	I223 荘司愛1・堀江良照1・鈴木俊郎2・中秀司3・望月淳4・安藤哲5・有田豊1 (名城大・農1・岐阜農技研2・鳥取大・農3・農環研4・東京農工大BASE5) スカシバガの性フェロモン(VII): コスカシバのトラップ誘殺条件の検討	J223 ○北村登史雄1・本多健一郎1・田中寛2・柴尾学2・桃下光敏3・山中聡3・芝実4 (農研機構・野菜茶研1・大阪環農水総研2・アリスト3・東雲短大4) トマトツメナシコハリダニの餌範囲について	K223 ○村田浩平1・松浦朝奈1 (東海大農・応用植物1・東海大農・応用植物2) オオルリシジミの生息地における草原性チョウ相と放牧	15:30
G224 ○緒方法親1・平岡毅1・岩淵喜久男1 (農工大・農・応用昆虫1) カブトムシを用いた初代培養における個体差に起因するばらつきに関する研究	H224 ○岩井秀樹1・守屋成一1・水谷信夫1・山口卓宏2 (中央農研1・鹿児島農総セ2) ホソヘリカメムシ用自動計数機能付トラップムシダス2000Sの再改造	I224 ○城田安幸1・菅野清孝1・金子悠太1 (弘前大・農学生命科学1) 無農薬りんご園の害虫管理(5) 3年間農薬が散布されていないりんご園における交信攪乱法と、慣行防除区における殺虫剤の効果の比較	J224 ○守矢大介1・北嶋康樹1・後藤哲雄1 (茨城大・農・応動昆1) アジサイナミハダニ (<i>Tetranychus hydrangea</i>) の増殖と薬剤感受性	K224 ○山崎舞1・佐々木均1 (酪農大院・昆虫1) 土地の利用形態による生物相の変異	15:45

3月29日(日) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:00	A225○大空鷹介1・矢野修一1 (京大院農・生体情報1) ナミハダニはなぜ飛び降りるか？	B225○弘中満太郎1・稲富弘一2・藤條純夫2・針山孝彦1 (浜松医大・生物1・佐賀大・農2) ベニツチカメムシの複眼の構造的制約はランドマークの優位性を決定する	C225○嘉数怜1・増岡直史1・堀雅敏1・松田一寛1 (東北大院農・生物制御1) 鞘翅目昆虫のふ節化学受容体の役割	D225○島津光明1 (森林総研1) カイガラムシに寄生するしょうこう病菌の分生子生産のための培地	E225○櫻井健志1・光野秀文1・内野恵郎2・横張文男3・西岡孝明4・瀬筒秀樹2・田村俊樹2・神崎亮平1 (東大先端研1・生物研2・福岡大理学部3・慶應大先端生命研4) 種認識における性フェロモン受容体の役割	F225○建本聡1・軸丸祥大1・見世大作1 (広島総研・農技セ・果樹研部1) 瀬戸内海沿岸部において分布拡大中のミカンバエ - 発生生態と防除対策 - 1) 2) ミカンバエの寄生をウンシュウミカン果実の外観から判断できるか？果梗部の離層形成および果皮の早期着色とミカンバエ寄生率の関係
16:15	A226○矢野修一1・刑部正博1 (京大院・農・生態情報1) カブリダニはアリによるギルド内捕食をどのように避けるか？	B226○針山孝彦1・弘中満太郎1・堀口弘子1 (浜松医大・生物1) ゲンジボタルの紫外受容と行動制御	C226○水谷信夫1・安田哲也1・守屋成一1 (中央農研1) 交尾がホソヘリカメムシ雄成虫のフェロモン成分保持量に与える影響	D226○篠原忍1・鳴海一成2・天野加恵1・田上陽介1・西東力1 (静大・農1・原子力機構2) ガンマ線照射による昆虫病原菌変異体の殺菌剤耐性と病原性	E226○富澤真1・野田博明1 (東大院 新領域1) ツマグロヨコバイにおけるRNAiの効果の検証	F226○軸丸祥大1・建本聡1・見世大作1 (広島総研農技セ果樹1) 瀬戸内海沿岸部において分布拡大中のミカンバエ - 発生生態と防除対策 - 3) 腐ったウンシュウミカンでもミカンバエ幼虫は生きて行けるのか？：早期落下果実における囲蛹調査
16:30	A227○長泰行1・上船雅義1・高林純示1 (京大・生態研センター1) ナミハダニを用いた、現在と将来の捕食リスクの評価	B227○山口卓宏1・守屋成一2・水谷信夫2 (鹿児島農総セ1・中央農研2) アルファルファタコゾウムシ成虫の歩行活動の日周性と歩行距離の推定	C227○下村健司1・石川晋1・三村尊紀1・矢嶋俊介1・大澤貴寿1 (東農大・応用生物科学1) 4種Callosobruchus属マメゾウムシ間におけるcopulation tuningの多様性	D227○天野加恵1・篠原忍1・堀利行1・田上陽介1・西東力1 (静大・農1) 植物病原菌に対する昆虫病原菌の拮抗作用	E227○河合佐和子1・野田博明1 (生物研・昆虫微生物1) トビイロウンカにおけるparental RNAi法の有効性の検証	F227○西一郎1 (山口農林総セ柑振セ1) 瀬戸内海沿岸部において分布拡大中のミカンバエ - 発生生態と防除対策 - 4) 室内での幼虫飼育におけるふ化率と飼料
16:45	A228○深谷緑1・上杉龍士1・刑部正博1 (京大院農・生態情報1) ミカンハダニ卵の赤い色素は紫外線から卵を守るのか	B228○香取郁夫1・山本貴史1 (近畿大農・昆虫1) チョウ4種の花色に対する訪花学習性の種間比較および雌雄間比較(2)	C228○野島聡1 (信越化学1) ネッタシマカ産卵誘引物質の解明：サブμgレベルでの2D NMR解析	D228○神谷克巳1 (岐阜生物研1) コナガから分離された昆虫疫病菌の特性評価	E228○淵側太郎1・松本顕2・谷村禎一3・富岡憲治4・松山隆志5・山岸正明6・宮竹貴久1 (岡山大院環・進化生態1・九大・高教センター2・九大院理・生物3・岡山大院自然科学4・沖縄農研セ5・沖縄防除セ6) ウリミバエの分子時計機構：交尾開始時刻を左右する遺伝変異の解明に向けて	F228○大平喜男1 (果樹研カンキツ1) 瀬戸内海沿岸部において分布拡大中のミカンバエ - 発生生態と防除対策 - 5) 温州ミカン収穫果に残存する幼虫に対する炭酸ガスくん蒸の殺虫試験

3月29日(日) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G225 ○堀内悠1・平岡毅1・岩淵喜久男1 (東京農工大学・応用昆虫1) アオムシコマユバチの寄生がモンシロチョウ幼虫の血球初代培養に与える影響に関する研究	H225 孫立倉2・○本山直樹1 (東農大・総研1・千葉大院・園2) 農薬代替資材として使われるニームオイル製剤の有効成分	I225 ○佐々木力也1・篠田一孝1・本田善之2 (富士フレイバー(株)1・山口農総技セ病害虫2) スリット入り立体型粘着トラップの検討とその活用(1) ホソヘリカメムシに対する捕獲性能の改善	J225 ○NGUYENTHI PHUONG THAO1・天野洋1 (千大院園・応動昆1) ミヤコカブリダニの交尾行動と産卵数に及ぼす温度の影響	K225 ○中尾史郎1・増田倫士郎1・江種伸之2・徳田裕二2 (京都府立大・応用昆虫1・和歌山大・水士環境2) エサキアメンボの紀ノ川流域個体群における空間明示モデルと減少要因	16:00
G226 ○沼田英治1・池野知子1・後藤慎介1 (大阪市大・院理1) ホソヘリカメムシの概日時計遺伝子とクチクラ形成リズム	H226 ○海野大1・西松哲義1・児玉洋1・坂田和之1・高木和裕1 (日本農薬株式会社1) 新規殺虫剤メタフルミゾン(アクセル)に関する研究(第2報) 殺虫スペクトル及び各種害虫に対する作用特性	I226 ○本田善之1・佐々木力也2・篠田一孝2 (山口農総セ・病害虫1・富士フレイバー2) スリット入り立体型粘着トラップの検討とその活用(2) ~ 吸実性カメムシ類(ホソヘリカメムシ)での利用と裏側粘着の可能性 ~	J226 ○西澤夏子1・北嶋康樹1・日本典秀2・後藤哲雄1 (茨城大・農・応動昆1・生物研2) <i>Oligonychus</i> 属の近縁3種におけるミトコンドリアDNAの種内変異	K226 ○大林隆司1・杉浦真治2・可知直樹1・岩淵喜久男3 (首都大院・理工1・森林総研2・農工大・農3) 続・特定外来生物ニューギニアヤリガタクウスムシの耐塩水性:貝類との比較	16:15
G227 松井崇明1・松本友久1・市原直征1・酒井翼12・佐竹炎2・渡康彦3・○竹田真木生1 (神大院農・昆虫機能1・サントリー・生有研2・芦屋大・教育3) ゴキブリの脳間部は概日リズムと摂食を制御する	H227 ○諫山真二1・中村知史1 (住友化学(株)・農化研1) ビプロロキシフェン(ブルート®) MC剤のクワシロカイガラムシに対する作用特性	I227 本田善之1・○畑中猛1・佐々木力也2・篠田一孝2 (山口農総セ1・富士フレイバー2) スリット入り立体型粘着トラップの検討とその活用(3) ~ 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)での利用 ~	J227 ○松田朋子1・日本典秀2・北嶋康樹1・後藤哲雄1 (茨城大・農・応動昆1・生物研2) <i>Oligonychus</i> 属ハダニのDNA塩基配列解析	K227 ○茂木佑香里1・岩佐光啓1 (帯広畜大・昆虫1) 食糞性昆虫の活動が牛糞からの温室効果ガス、特に亜酸化窒素発生に及ぼす影響	16:30
G228 ○後藤三千代1・白土秀幸1・結城啓太1 (山形大農1) 南北2産地アワノメイガ越冬幼虫の休眠深度、発育零点および有効積算温度	H228 ○土田聡1・森下正彦2 (果樹研・ブドウカキ1・和歌山県農業環境保全室2) 合成ビレスロイド抵抗性ネギアザミウマの抵抗性メカニズムの解明	I228 ○新垣則雄1・外間康洋1・山村光司2 (沖縄農研1・農還研2) ハリガネムシのサンプリングのための効率的なベイトラップの構築	J228 ○福本千尋1・北嶋康樹1・日本典秀2・後藤哲雄1 (茨城大・農・応動昆1・生物研2) 日本産13種および海外産3種の <i>Tetranychus</i> 属ハダニのDNAによる識別	K228 ○中口(高橋)梓1・山本真史1・岩田健一1・岩淵喜久男2・戸塚ゆ加里1・杉村隆1・若林敬二1 (国立がんセンター1・農工大・応用昆虫2) モンシロチョウ免疫機能におけるピエリシン-1の役割	16:45

3月30日(月) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A301 ○ 名須川信児1・藤井 毅1・中野亮1・安藤哲2・石川幸男1・田付貞洋1 (東大院農・応用昆虫1・東京農工大・BASE2) ニカメイガにおける寄主選択と産卵行動のメカニズム	B301 ○ 松山隆志1・原口大2 (沖縄農研セ1・沖縄防技セ2) 長期累代飼育された大量増殖系統ウリミバエは野生系統ウリミバエを誘引できるか?	C301 ○ 足立康1・NguyenDuc Do1・田栗知憲1・山川玲1・安藤哲1・金城政勝2 (農工大 大院 BASE1・琉大 熱生圏研究センター2) コケガが分泌する新規な性フェロモン成分の野外誘引試験	D301 ○ 増田俊雄1・近藤誠1・関根崇行2・原裕芽子3・相内大吾3・小池正徳3 (宮城農園研1・宮城県 農林水産部2・帯畜大・環境微生物3) 昆虫病原系状菌 <i>Lecanicillium</i> spp.(<i>Verticillium lecanii</i>)による病害虫同時防除の可能性	E301 ○ Le Thi Dieu Trang1・竹田真木生1 (神戸大学1) Expressional and functional diversity of <i>Bombyx mori</i> Opsins	F301 ○ 秋元信一1 (北大院農・昆虫体系1) アブラムシ孵化幼虫の形態・生殖形質は卵の孵化時期と関連する
9:15	A302 ○ 吉田英哉1・積木久明1 (岡山大学・資生研1) オオタバコガ幼虫の寄主植物選好性と学習(II)	B302 ○ 香月雅子1・徳永幸彦2・宮竹貴久1 (岡大・院・進化生態1・筑波・生命環境2) ヨツモンマメゾウムシの幼虫競争タイプの違いは配偶行動に影響するのか	C302 ○ MD. AZHARULISLAM1・山川玲1・沼倉直子1・鈴木俊郎2・安藤哲1 (農工大 大院 BASE1・岐阜 農技研2) 鱗翅目昆虫が分泌する末端共役ジエン系性フェロモンのGCおよびHPLC分析	D302 ○ 薦谷幹彦1・西島賢16・相内大吾2・増田俊雄3・小野寺鶴将4・山中聡5・小池正徳1 (帯畜大・環境微生物1・岩手連大2・宮城農園研3・十勝農試4・アリス タライフサイエンス5・日本農薬6) 昆虫寄生性系状菌によるエンドファイトとしての可能性	E302 ○ 寺村皓平1・松本顕顕2・淵側太郎3・大田由衣1・松山隆志3・山岸正明3・谷村禎一4・宮竹貴久1 (岡山大農・進化生態1・九大高研セ2・沖縄農試3・九大院理・細胞機能4) 交尾開始時刻の異なるウリミバエ2系統における時計遺伝子: <i>shaggy</i> と <i>cycle</i> の塩基配列解析	F302 ○ 富田秀一郎1・行弘研司1・河本夏雄1・上田恭一郎2 (生物研・昆虫ゲノム1・北九州市立自然史・歴史博物館2) ミトコンドリアゲノムを用いたナナフシ目の系統解析
9:30	A303 ○ 服部誠1・中村匡利1・土原和子2・小松節子3・田村泰盛1・長谷川毅1 (農生研1・いわき明星大2・作物研3) ツマグロヨコバイの唾液に含まれる新規のカルシウム結合タンパク質	B303 ○ 大谷英児1・所雅彦1 (森林総研1) カシノナガキクイムシ日本海型雌は太平洋型雄に無関心	C303 LeVan Vang1・ Nguyen Duc Do2・LeKy An1・Chau Nguyen Quoc Khanh1・安藤哲2 (Can Tho University, Viet Nam1・農工大 大院 BASE2) ベトナムメコンデルタにおける <i>Prays</i> sp. (鱗翅目: スガ科) の性フェロモンによる誘引と交信攪乱	D303 ○ 甲斐原布紗子1・相内大吾12・小田尚幸3・畠山吉則3・岩野秀俊3・山中聡4・小池正徳1 (帯畜大・環境微生物1・岩手連大2・日大・応用昆虫3・アリス タライフサイエンス4) 昆虫寄生性系状菌 <i>Lecanicillium</i> 属菌 (<i>Verticillium lecanii</i>) プロトプラスト融合株のDNA多型	E303 ○ 伏木大輔1・吉村亮一1・遠藤泰久1 (京都工繊大・応用生物1) ワモンゴキブリの組織におけるGap結合関連タンパク質 <i>innexin</i> の局在	F303 ○ 木村澄1・芳山三喜雄1・高橋純一2・吉田忠晴3 (独) 農研機構畜草研みつばち1・京大生態研2・玉川大ミツバチ科学3) セイウミツバチとニホンミツバチの簡易な種判別法
9:45	A304 ○ 中村匡利1・服部誠1・田村泰盛1・長谷川毅1 (農業生物資源研究所1) ツマグロヨコバイ唾液腺のβ-グルコシダーゼ遺伝子の多型	B304 ○ 西村知良1・近雅博1 (滋賀県大・環境科学1) ヨツボシモンシデムシの死体獲得競争における最適な体サイズ	C304 ○ 手林慎一1・涌井流1・西村圭史1・西山yoshihide1・池野靖典1・金哲史1 (高知大農・生理活性1) クスノキに含まれるアオスジアゲハ幼虫の摂食刺激物質	D304 ○ 渡邊敏弘1・相内大吾1・西野沙希1・山中聡2・小池正徳1 (帯畜大・環境微生物1・アリス タライフサイエンス2) <i>Lecanicillium</i> spp. のワタアブラムシにおける水平伝播の評価	E304 ○ Shao Qi-Miao1・Izawa Norimitsu1・Takeda Makio1 (神戸大学農学研究科1) Structures, localization, expression profiles and ontogenetic modification of the LWopsin and SWopsin in the ground cricket, <i>Dianemobius nigrofasciatus</i> .	F304 ○ 古江翔1・前藤薫1 (神戸大院農・昆虫機能1) ギンケハラボソコムバチの産雌性単為生殖のメカニズムと遺伝様式
10:00	A305 ○ 三高隼人1・三浦奈美1・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1) 狭食性昆虫タマネギバエの嗅覚受容にかかわる遺伝子の探索	B305 ○ 坪井助仁1・西田隆義1・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1) ヒロヘリアオイラガにおける繭の隠蔽にかかるコストの定量化	C305 涌井流1・西村圭史1・西山佳秀1・池野靖典1・手林慎一1・金哲史1 (高知大農1) クスノキに含まれるアオスジアゲハ産卵刺激物質	D305 ○ 刀祢淳也1・斎藤由布奈1・相内大吾12・桃下光敏3・山中聡3・小池正徳1 (帯畜大・環境微生物1・岩手連大2・アリス タライフサイエンス3) 昆虫寄生性系状菌 <i>Lecanicillium</i> 属菌 <i>Verticillium lecanii</i> がコレマンアブラバチ <i>Aphidius colemani</i> に及ぼす影響	E305 ○ 山本大介1・南雲浩志1・吉田栄人1 (自治医大・医動物学1) 唾液中に外来遺伝子産物を発現するトランスジェニックハマダラカの解析	F305 ○ 藤井告1・大門高明1・阿部広明2・勝間進1・嶋田透1 (東大院農・昆虫遺伝1・農工大農・昆虫機能2) カイコの雌が不完全に雄化するW染色体連鎖の突然変異

3月30日(月) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G301○金子順一1 (北農研セ1) 鱗翅目昆虫の蛹における腹部 の空隙の形成	H301○松村正哉1・真田幸代 1・作本信次2・竹内博昭1・大 塚彰3 (九州沖縄農研1・熊本農研2・ 中央農研3) ヒメトビウンカの薬剤感受性の 動向 1. 東アジア地域の状況 と2008年6月に九州に飛来し た個体群の感受性	I301○務川重之1・遠山宏 和1 (茨城農総セ・生工研1) <i>Beauveria bassiana</i> 製剤の 微小害虫への防除効果に 及ぼす湿度の影響	J301○平尾綾子1・ Bernstorff Friderika1・ Ehlers Ralf Udo1 (キール大農・植物防疫学科 1) 液体培養時における昆虫病 原性線虫 <i>Steinernema</i> 属の 生長促進ファクター	K301○嘉田修平1・藤崎憲 治1 (京大院農・昆虫生態1) 水辺に生息するコバネナガ カメムシの分散多型性に影 響する要因の検討	9:00
G302○今井利宏1・水谷雅史 2・田中正泰2 (JT葉たばこ研1・JT品質分析 部2) 茵陳蒿(インチンコウ)に含まれ るタバコシバムシに対する殺 虫活性物質	H302 松村正哉1・真田幸代1・ ○作本信次2・竹内博昭1・大 塚彰3 (九州沖縄農研1・熊本農研2・ 中央農研3) ヒメトビウンカの薬剤感受性の 動向 2. 2008年6月以降の九 州・山口における状況	I302○山下伸夫1 (農研機構・東北農研1) リビングマルチとニーム資材 によるキャベツ害虫防除効 果	J302○串田篤彦1・関口博 之1 (北農研1) DGGE法による土壌線虫群 集解析の有効性	K302○石黒則雄1・水谷信 夫2・土田浩治1 (岐阜大・応生・昆虫1・中央 農研2) カメムシ卵塊から発生した カメムシタマゴトビコバチの 寄生パターンの推定	9:15
G303○山根隆史1・宮竹貴久1 (岡大院・環境1) 生体アミンをインジェクションし たマメゾウムシにおける交尾受 容性と産卵数の変化	H303○上野清1・土門清2・金 子勝廣3 (山形農総研・庄内支場1・山形 防除所2・山形防除所庄内3) コバネナガの多発事例と薬 剤感受性(予報)	I303○望月雅俊1・土田聡 1・鈴木俊郎2・市橋秀幸2 (農研機構・果樹研1・岐阜 農技セ2) カキノヘタムシガ幼虫に対 するバンドトラップの捕獲効 率	J303○神崎菜摘1・李後鋒 2・藍艶秋3・小阪肇4・ギブリ ン・デービスロビン2 (森林総研・微生物1・フロリ ダ大学・昆虫ノ線虫2・立徳 大学・昆虫3・森林総研・北 海道4) 台湾の憩丁国立公園におい てシロアリ類より検出された 線虫類	K303○石島力1・佐藤安志 1・大泰司誠1 (野茶研・茶IPM研究チーム 1) チャ園での防除体系の違 いがクモ類の発生に及ぼす 影響	9:30
G304○岩淵喜久男1・星野啓 太1・安藤哲2・清田隆太郎2 (農工大農・応用昆虫1・農工 大・BASE2) ブドウトラカミキリ雄性フェロモ ン成分の前駆体としての役割	H304○樋口聡志1・行徳裕1 (熊本農研セ1) 無淘汰飼育におけるタバココ ナジラミバイオタイプQの薬剤 感受性の変動	I304○柴尾学1・井上欣勇 2・森川信也1・田中寛1 (大阪環農水総研1・大阪府 大2) 太陽熱利用による露地栽培 ネギのネギアザミウマの防 除	J304○関本茂行1・植原健 人2・酒井啓充1 (横浜植防1・北農研2) PCR-RFLP法による日本産 <i>Heterodera</i> 属シストセンチュ ウ5種の識別	K304○松野和夫1・稲垣栄 洋1・大石智広1・高橋智紀 1 (静岡農林研1) 環境保全型農業を実施す る水田と慣行水田に発生す るコモリグモの比較	9:45
G305○柿崎昌志1 (北海道道南農試1) アカスジカシカメの性フェロモ ントラップの形状の検討	H305○阿部成人1・中野昭雄1 (徳島農研1) 徳島県内に発生したハスモン ヨトウのエマメクチン安息香酸 塩剤に対する感受性	I305○濱崎貴史1・藪哲男1 (石川農研1) 化学農薬投入量の異なる 水田における昆虫・クモ類 の比較	J305○酒井啓充1 (横浜植防1) 本邦記録種を中心としたネコ ブセンチュウのミトコンドリア DNA及び核リボソームRNA 遺伝子領域のPCR増幅と同 定識別技術としての利用可 能性について	K305○釘宮聡一1・上船雅 義2・下田武志3 (農環研1・京大・生態研2・ 中央農研3) コナガサムライコマコバチ の探索行動における情報 利用の生理依存性	10:00

3月30日(月) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:15	A306○小島渉1・藤井毅1・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1) トウモロコシ2次代謝物質の摂食が2種のアワメイガ属幼虫に与える影響	B306○兵働大輔1・藤崎憲治1 (京大院・農・昆虫生態1) シロヘリクチブトカメムシ幼虫の集団捕食に対する餌サイズの影響	C306○李静1・涌井流1・手林慎一1・金哲史1 (高知大農・生理活性1) クスノキ由来揮発性成分に対するアオスジアゲハのEAG応答	D306○堀江早弥佳1・相内大吾12・渡邊敏弘1・山中聡3・小池正徳1 (帯広畜産大学・環境微生物1・岩手連大2・アリスタライフサイエンス3) <i>Lecanicillium muscarium</i> (<i>Verticillium lecanii</i>)を用いた施設栽培におけるオンシツコナジラミ <i>Trialeurodes vaporariorum</i> の防除	E306○土屋聡志1・深澤直人1・今井利宏1 (JT葉たばこ研1) 各種単波長光のタバコシバンムシに対する誘引性	F306○鈴木匠1・桜井勝1・岩見雅史1 (金沢大院自然・生命科学1) カイコガ蛹における直腸囊膨張の内分泌的コントロール
10:30	A307○和佐野直也1・中村匡利1・今野浩太郎1・平山力1 (生物研1) 新たなクワ耐虫性タンパク質のスクリーニング	B307○佐藤智1・安田弘法1・俵谷圭太郎1・村山秀樹1・西澤隆1・村山哲也1・豊増知伸1・ブルノモエリ2・Tアンディ3・Mスハルディ4・Wウィジャクソノ3・Sスブタ3・Hハンドヨ4 (山形大・農1・LMU・農2・UGM・農3・UGM・林4) 熱帯でのAM菌根菌の土壌接種が地上部の植物および節足動物の発生量に及ぼす影響	C307○安居拓恵1・若村定男1 (農業生物資源研1) エゾノキヌヤナギに対するゴマダラカミキリの反応	D307○山田溪花1・相内大吾12・増田俊雄2・山中聡3・小池正徳1 (帯広畜大・環境微生物1・岩手連大2・宮城農園研3・アリスタライフサイエンス4) 昆虫寄生性糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> および <i>Lecanicillium</i> 属菌(<i>Verticillium lecanii</i>)を用いたコナガの防除	E307○三輪正昭1・堀雅敏1 (東北大院農・生物制御1) タバコシバンムシの産卵メカニズム	F307○伊藤克彦1・勝間進1・山本公子2・門野敬子2・三田和英2・嶋田透1 (東大院農1・生物研2) カイコの褐頭尾斑および第二褐頭尾斑遺伝子の遺伝子構造の比較
10:45	A308○阿部誠1・田母神繁1 (秋田県立大・生物資源1) オオニジュウヤホシテントウがカボチャの葉を餌にするには？	B308○日比野翔1・安田弘法1 (山形大農・動物生態1) キャベツ上の2種の害虫に対する徘徊性及び造網性クモの数の反応	C308○中田まり子1・本田計一1・大村尚1 (広島大学生物圏科学1) アサギマダラ成虫のピロリジジナルカロイド類に対する嗅覚応答	D308○吉村信吾1・仲井まどか1・中西和子1・国見裕久1 (農工大院・農1) シロモンヤガ顆粒病ウイルスにコードされるカリヤコモバチ幼虫致死タンパク質ホモログの発現とその殺虫活性	E308○吉田信代1 (農研機構東北農研センター1) 動物薬の毒性試験法の検討:幼虫が地上の糞で成育する糞虫を用いて	F308○吉田昭広1・木下勉2 (JT生命誌研究館1・立教大・理・生命理2) モンシロチョウのハネにおける細胞配列パターン形成-複数の基本機構の協力-
11:00	A309○田村泰盛1・服部誠1・中村匡利1・長谷川毅1 (農業生物資源研1) インド型イネ品種Nona Bokraのツマグロヨコバイ抵抗性発現部位の解析	B309○土谷賢太郎1・村田浩平2・岩田真木郎3・村田達郎2 (東海大院農・天敵生態1・東海大農・応用植物2・東海大農・阿蘇教養教育センター3) 阿蘇地域の放牧地におけるフン虫相	C309○坂井亮太1・福澤麻衣2・中野亮1・田付貞洋1・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1・三井化学2) 種特異的な性フェロモン生合成における不飽和化酵素遺伝子の調節機構	D309○高務淳1・島津光明1 (森林総研1) マイマイガの病原糸状菌とカシワマイマイから分離された核多角体病ウイルス	E309○黒坂博貴1・仲島義貴1 (帯広畜産大・昆虫1) 宿主由来の匂いに対するネッタイシマカの反応:日齢と温湿度の影響	F309○吉戸敦生1・佐原健2・松田洋一1 (北大院理1・北大院農2) シンジュ蚕地域個体群間の性染色体比較
11:15	A310○小林政文1・村井保1 (宇都宮大農・応用昆虫1) ダイズアブラムシのダイズ品種及びツルマメでの発育・増殖と選好性	B310○鈴木智之1・安東義乃1・大串隆之1 (京大生態研1) セイタカアワダチソウのクローンと植食性昆虫が分解過程に与える影響	C310○山崎まどか1・佐倉緑2・青沼仁志2・松山茂3・秋野順治1・山岡亮平1 (京工繊大 応用生物1・北大 電子研2・筑波大 生命環境3) クロコオロギ雄の喧嘩行動誘起フェロモン	D310○後藤千枝1・務川重之1 (中央農研1) XecnGV顆粒体成分の添加によるMabrNPVの圃場における殺虫効果の向上	E310○白石昭彦1・佐々木均2 (東北農研1・酪農大2) オリセットネットを利用した飛来性吸血昆虫捕殺技術の開発	F310○佐原健1・柴田洋1・河合絢1・藤川典子1・吉戸敦生2・中野亮3・石川幸男3・神村学4・田中(奥山)牧子4・安河内祐二4 (北大院農・応用分子昆虫1・北大創成研2・東大院農・応用昆虫3・生物研4) 鱗翅目昆虫における遺伝子配置のBAC-FISH解析

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G306○銭曙光1・藤井毅1・BinuAntony1・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1) アズキノメイガの性フェロモン腺で特異的に発現するfatty acyl reductase (FAR) 遺伝子のクローニング	H306○古崎利紀1・古田賢次郎2・桑野栄一2・篠田徹郎1 (農生資研1・九州大学2) カイコCYP15C1恒常発現株を用いたJH生合成阻害剤のスクリーニング	I306○遠山宏和1・沼田慎一1 (茨城農総セ・生工研1) 茨城県内におけるトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)の伝染環の調査	J306○岩堀英晶1・上杉謙太1・立石靖1 (九州沖縄農研1) ネコブセンチュウ3種4個体群の発育における温度の影響	K306○上野高敏1 (九大・農・生防研1) 導入寄生蜂によるアルファルファタコソウムシ寄生率はレンゲ加害部位によって異なる	10:15
G307○藤井毅1・伊藤克彦2・勝間進2・嶋田透2・石川幸男1 (東大院農・応用昆虫1・東大院農・昆虫遺伝2) アズキノメイガ <i>Ostrinia scapularis</i> のフェロモン腺で発現しているアセチル基転移酵素の解析	H307○園田昌司1・井垣智賀子1・積木久明1 (岡山大学・資生研1) コナガの合成ピレスロイド剤抵抗性に関与する新たなナトリウムチャンネルの変異について	I307○森本信生1・西城洋子1・鈴木芳人1 (中央農研1) 農法の異なる水田に発生する主要な節足動物の比較1. 米麦二毛作と一毛作の違い	J307○藤本岳人12・富高保弘2・二井一禎1・津田新哉2・水久保隆之2 (京大院農1・中央農研2) サリチル酸処理がトマトのサツマイモネコブセンチュウ寄生率に及ぼす影響	K307○外山晶敏1・三代浩二1・檜垣守男1・井原史雄1 (果樹研1) チャバネクロタマゴバチ <i>Trissolcus plautiae</i> の越冬機構	10:30
G308○若村定男1・安居拓恵1・望月文昭2・福本毅彦2・新垣則雄3・永山敦士3・上里卓己4・宮城聡子5・小椋博昭5・田中誠二1・徳田誠6・深谷緑7・秋野順治8・平井剛夫9・志賀正和10 (農業生物研1・信越化学2・沖縄農研3・沖縄防技セ宮古4・沖縄農研宮古島5・理研6・京大院農7・京都工繊大8・静岡市9・果樹研10) ケブカアカチャコガネの高揮発性フェロモンのトラップ用誘引源	H308○BautistaMa. Anita1・三浦健1・田中利治1 (名大院・生命農・害虫制御1) 二本鎖RNAの経口投与によるRNA干渉を用いたバーメスリン抵抗性コナガのチトクロムP450,CYP6BG1の機能解析	I308○西城洋子1・森本信生1・鈴木芳人1 (農研機構・中央農研1) 水田に発生する主要な節足動物の農法間比較2. 減農薬・減化学肥料・有機および慣行栽培水田の違い	J308○植原健人1・宇梶慎子1・植原愛1・今井亮三1 (北農研1) モデル実験植物シロイヌナズナにおけるネコブセンチュウの増殖について	K308○降幡駿介1・木村正人2 (北大・理1・北大・院環境2) 寄生蜂 <i>Asobara japonica</i> の毒液は宿主に対し致死作用を示す	10:45
G309○今野浩太郎1・中村匡利1・和佐野直也1・小野裕嗣2・竹中真紀子3・大藤泰雄4 (農業生物資源研1・農水省2・食総研3・国研センター熱帯・島嶼拠点4) イチジク属植物の乳液中耐虫成分の種間多様性: オオバユスビワにおける疎水性アルカロイドとハマイヌビワ等におけるプロテアーゼ	H309○駒形修1・葛西真治1・正野俊夫1・糸川健太郎2・富田隆史1 (感染研・昆虫1・千葉大・融合2) ネッタイエカのpermethrinを代謝するシトクロムP450分子種	I309○鈴木俊1・砂村栄力1・寺山守1・田付貞洋1・坂本洋典2・岸本年郎3・森英章3・内海與三郎4・福本毅彦5 (東大院農・応用昆虫1・農環研2・自然環境研究センター3・アース・バイオケミカル4・信越化学5) 横浜港におけるアルゼンチンアリ根絶防除の試み	J309○相場聡1 (中央農研・検出同定チーム1) 北海道南西部のダイズシストセンチュウ発生状況	K309○高篠賢二1・榊原充隆1 (東北農研1) セイヨウコナガチビアメバチとニホンコナガヤドリチビアメバチのワックスレス型キャベツ品種と普通型品種における寄生率の違い	11:00
G310○小川建太1・樋口央紀2・仲川清隆1・宮澤陽夫1・堀雅敏1 (東北大院・農1・株式会社プロジェクト・エム2) 桑品種別DNJ含量と各桑品種で飼育したカイコ体内DNJ蓄積量の相関関係	H310○糸川健太郎1・駒形修2・葛西真治2・岡村佳香3・政田正弘1・富田隆史2 (千葉大院融合1・国立感染症研究所2・静岡県農技研3) 殺虫剤抵抗性ネッタイエカで高発現しているピレスロイド代謝性P450遺伝子の発現機構に関する研究		J310○伊藤賢治1 (農研機構・北農研1)えん麦野生種後作ダイコンでのキタネグサレセンチュウの増殖と被害	K310○八島圭佑1・村井保1 (宇都宮大農・応昆1) <i>Aphelinus</i> 属の種に寄生されたアブラムシはすべて下に移動するのか?	11:15

3月30日(月) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:30	A311○長谷川毅1・服部誠1・田村泰盛1・中村匡利1・野田博明1 (農生研1) トビイロウンカ唾液腺ESTデータベースにおける全クラスターの解析 - 唾液腺の推測される機能と関連する遺伝子の検討 -	B311 岸茂樹1・○西田隆義2・椿宜高1 (京大生態研センター1・京大農昆虫生態2) 資源競争ではなく繁殖干渉が種間競争の結果を決める	C311○本田洋1・北原博史1 (筑波大院・生命環境1) ホシメボウジャクの性フェロモン	D311○中島信彦1 (農業生物資源研究所1) ジシストロウイルスの複製酵素前駆体タンパク質内の切断点解析	E311○佐々木均1・白石昭彦2 (酪農大・昆虫1・東北農研センター2) オリセトネットはニッポンシロフアブ防除に効果があるか	
11:45	A312○安部洋1・立石剣2・下田武志3・大西純4・釘宮聡一5・鳴坂真理6・瀬尾茂美2・今野浩太郎2・服部誠2・鳴坂義弘6・津田新哉3・小林正智1 (理研バイオリソースセンター1・生物研2・中央農研3・野茶研4・農環研5・岡山生物研6) モデル植物シロイヌナズナを用いた植物—昆虫間相互作用研究	B312○上田明良1・田淵研2・日野輝明3 (森林総研北海道1・中央農研2・森林総研関西3) 大規模防鹿柵内におけるミヤコザサフシコブタマバエ寄生蜂2種の寄生率変化	C312○東方佐千子1・野村有子1・林一彦2・秋野順治1・山岡亮平1 (京工繊・応用生物1・大阪学院・経済2) ユリの花由来化学物質のアリ忌避効果の検証			

3月30日(月) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	
G311○西田律夫1・榎本弘1・石田龍顕2・シェリートッド E.3 (京大院農・化学生態1・那覇植防2・USDA/APHIS3) 新規ナスミバエ雄誘引物質 α -ionone 酸化体の同定と雄直腸腺への選択蓄積作用	H311○富田隆史1・駒形修1・葛西真治1・津田良夫1・比嘉由紀子2・小林睦生1・WeerasingheIndira S3・WangHsi-Chieh4 (感染研・昆虫医科学部1・長大・熱帯医学研2・Med. Res. Inst., Sri Lanka3・Ctr. Disease Control, Taiwan4) アジアのコガタアカイエカ集団における殺虫剤抵抗性アセチルコリンエステラーゼ遺伝子(Ace2)の分布(II)			K311○眞壁敬明1・浅田真一1・青木隆1・岸本英成2・山中聡3・桃下光敏3 (神奈川農技セ・根府川1・果樹研・口之津2・アリスト3) スワルスキーカブリダニのカンキツ微小害虫に対する捕食能力および餌としてのカラタチ花粉の評価	11:30
G312○酒井圭一1・小野肇1・西田律夫1 (京大院農・化学生態1) ハエ類を誘引するウマノスズクサ花香成分の同定				K312○横田安由美1・津田みどり1・高木正見1 (九大院農・生防研1) リアルタイムPCRを用いた多食性捕食者タイリクヒメハナカメムシ腸内の被食ミナミキイロアザミウマの定量化	11:45